

## 2. 調査の結果

本報告書の図表番号は以下の通りとしています。

- ・図表 1-〇:第 3 回調査(12 か月後(令和 7 年 5 月実施))の結果
- ・図表 2-〇:第 4 回調査(18 か月後(令和 7 年 11 月実施))の結果
- ・図表 3-〇:第 1 回～第 4 回調査(18 か月間)の結果

### 2.1 第 3 回調査:12 か月後(令和 7 年 5 月実施)

令和 6 年 5 月に貸与を選択した利用者 343 名のうち、12 か月後の令和 7 年 5 月に貸与を継続した者は 141 名(41.1%)で、貸与から販売(購入)に変更した者 16 名(4.7%)、利用を中止した者は 186 名(54.2%)であった。

令和 6 年 5 月に販売(購入)を選択した 120 名のうち継続利用している者は 93 名(77.5%)、中止した者 27 名(22.5%)であった。

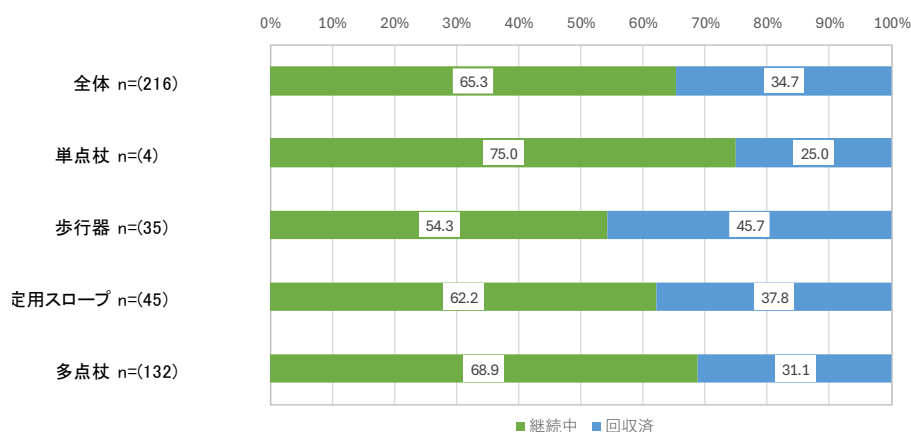
#### 2.1.1 福祉用具貸与の継続の状況

第 2 回調査(6 か月後)時点で貸与継続だった 216 名における第 3 回調査(12 か月後)時点の状況は、継続中が 141 名、回収済が 75 名であった。

図表 1-01

モニタリング実施又は全て回収時点の状況について

	調査数	継続中	回収済	
全体	216 100.0	141 65.3	75 34.7	
調査対象用具	単点杖	4 100.0	3 75.0	1 25.0
	歩行器	35 100.0	19 54.3	16 45.7
	固定用スロープ	45 100.0	28 62.2	17 37.8
	多点杖	132 100.0	91 68.9	41 31.1



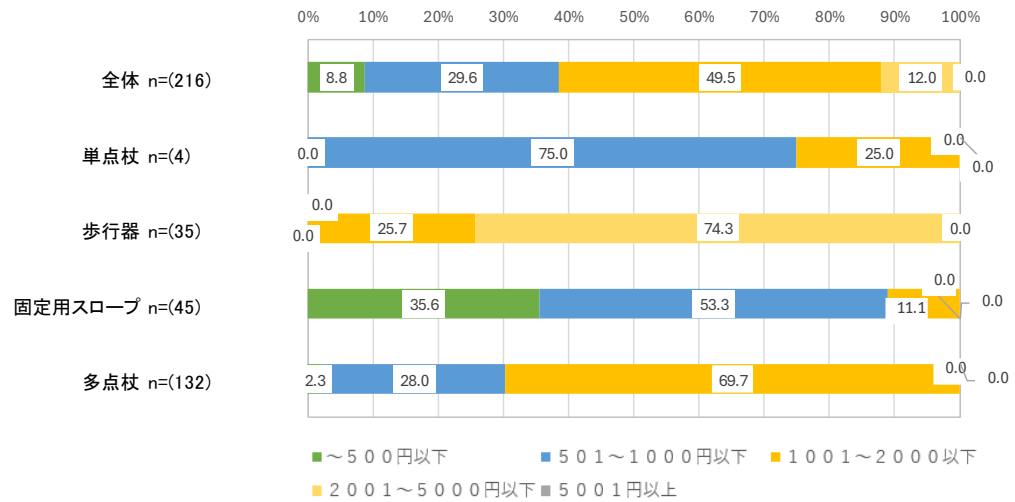
## 1. 調査対象用具1個あたりのレンタル料金

調査対象用具1個あたりのレンタル料金は、全体として「1,001～2,000円」が49.5%で最も多かった。種目別では、「単点杖」が「501～1,000円」75.0%、「歩行器」が「2,001～5,000円」74.3%、「固定用スロープ」が「501～1,000円」53.3%、「多点杖」が「1,001～2,000円」69.7%と最も多かった。全体の平均金額は1,205円で、個別で見ると「単点杖」1,005円、「歩行器」2,243円、「固定用スロープ」610円、「多点杖」1,139円であった。

図表 1-02

調査対象用具1個あたりのレンタル料金

	調査数	500円以下	501～1,000円	1,001～2,000円	2,001～5,000円	5,001円以上
全体	216	19	64	107	26	-
	100.0	8.8	29.6	49.5	12.0	-
調査対象用具	単点杖	4	-	3	1	-
		100.0	-	75.0	25.0	-
	歩行器	35	-	-	9	26
		100.0	-	-	25.7	74.3
固定用スロープ	45	16	24	5	-	
	100.0	35.6	53.3	11.1	-	
多点杖	132	3	37	92	-	
	100.0	2.3	28.0	69.7	-	



図表 1-03

		調査数	平均	最小値	最大値
全体		216	1,205	300	3,660
調査対象用具	単点杖	4	1,005	1,000	1,020
	歩行器	35	2,243	1,180	3,660
	固定用スロープ	45	610	300	1,500
	多点杖	132	1,139	500	1,340

## 2. TAIS 希望小売価格

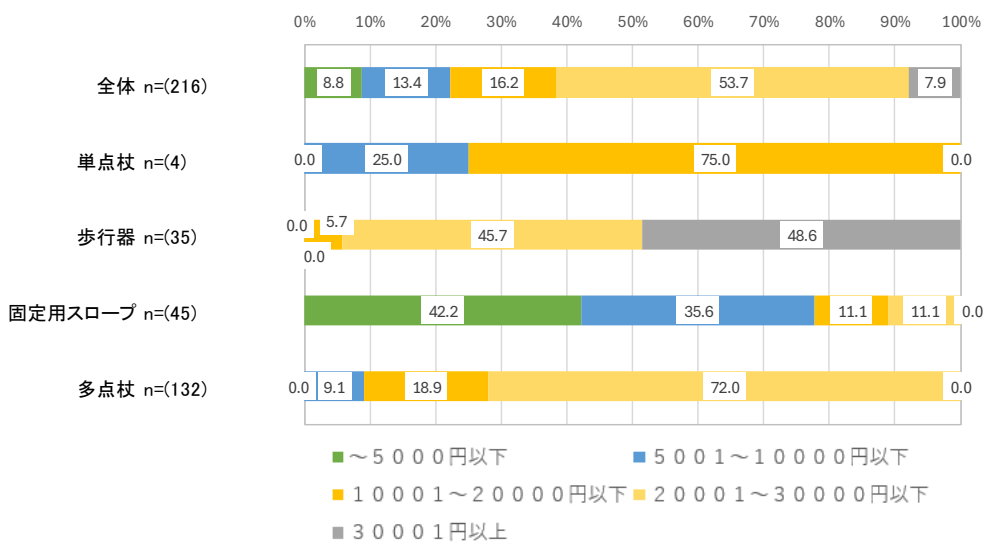
TAIS 希望小売価格は、全体として「20,001 円～30,000 円」が 53.7%で最も多かった。種目別では、「単点杖」が「10,001 円～20,000 円」75.0%、「歩行器」が「30,001 円」48.6%、「固定用スロープ」が「5,000 円以下」42.2%、「多点杖」が「20,001 円～30,000 円」72.0%と最も多かった。

全体の平均価格は 19,224 円で、種目別で見ると「単点杖」11,975 円、「歩行器」33,400 円、「固定用スロープ」7,938 円、「多点杖」19,533 円であった。

図表 1-04

TAIS希望小売価格

		調査数	5000円以下	5001~10000円以下	10001~20000円以下	20001~30000円以下	30001円以上
全体		216	8.8	13.4	16.2	53.7	7.9
調査対象用具	単点杖	4	-	25.0	75.0	-	-
	歩行器	35	-	-	5.7	45.7	48.6
	固定用スロープ	45	42.2	35.6	11.1	11.1	-
	多点杖	132	-	9.1	18.9	72.0	-



図表 1-05

TAIS希望小売価格(円)

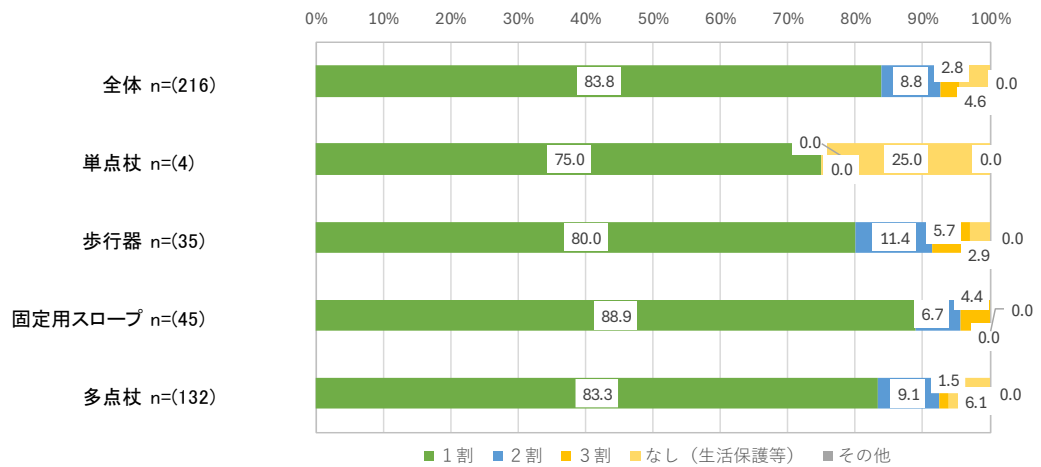
		調査数	平均	最小値	最大値
全体		216	19,224	3,500	71,000
調査対象用具	単点杖	4	11,975	7,200	16,000
	歩行器	35	33,400	18,800	71,000
	固定用スロープ	45	7,938	3,500	24,200
	多点杖	132	19,533	7,000	24,800

### 3. 自己負担割合

自己負担割合は、全体として「1割」が83.8%で最も多かった。種目別でも、「単点杖」が「1割」75.0%、「歩行器」は「1割」80.0%、「固定用スロープ」が「1割」88.9%、「多点杖」が「1割」83.3%と「1割」が最も多かった。

図表 1-06

		調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	その他
全体		216	181	19	6	10	-
		100.0	83.8	8.8	2.8	4.6	-
調査対象用具	単点杖	4	3	-	-	1	-
		100.0	75.0	-	-	25.0	-
	歩行器	35	28	4	2	1	-
		100.0	80.0	11.4	5.7	2.9	-
	固定用スロープ	45	40	3	2	-	-
	100.0	88.9	6.7	4.4	-	-	
多点杖	132	110	12	2	8	-	
	100.0	83.3	9.1	1.5	6.1	-	



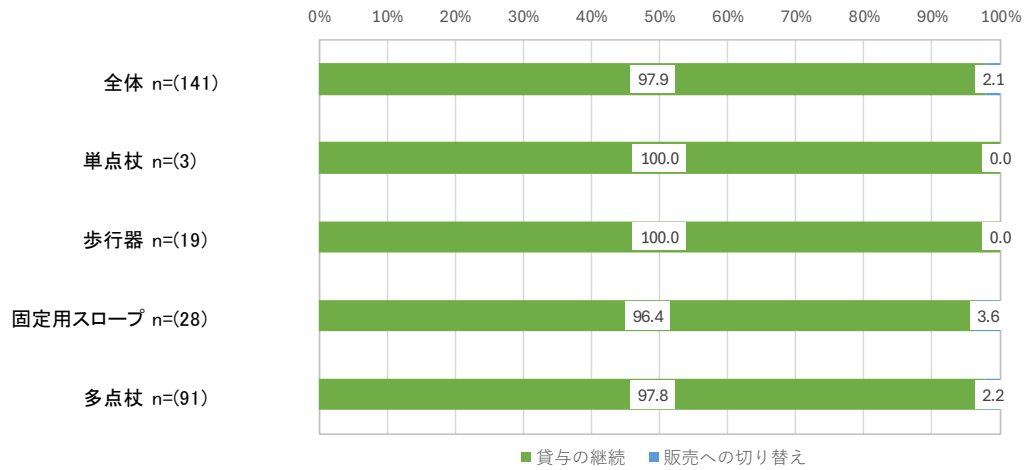
#### 4. 貸与継続の検討の結果

貸与継続の検討の結果は、全体として「貸与の継続」97.9%、「販売への切り替え」2.1%であった。種目別では、「単点杖」と「歩行器」が「貸与の継続」100.0%、「固定用スロープ」が「貸与の継続」96.4%、「多点杖」が「貸与の継続」97.8%といずれも「貸与の継続」が多かった。

図表 1-07

貸与継続の検討の結果

		調査数	貸与の継続	え 販売への切り替え
全体		141	138	3
		100.0	97.9	2.1
調査対象用具	単点杖	3	3	-
		100.0	100.0	-
	歩行器	19	19	-
		100.0	100.0	-
固定用スロープ	28	27	1	
	100.0	96.4	3.6	
多点杖	91	89	2	
	100.0	97.8	2.2	



## 5. 貸与中止(福祉用具の回収)の理由

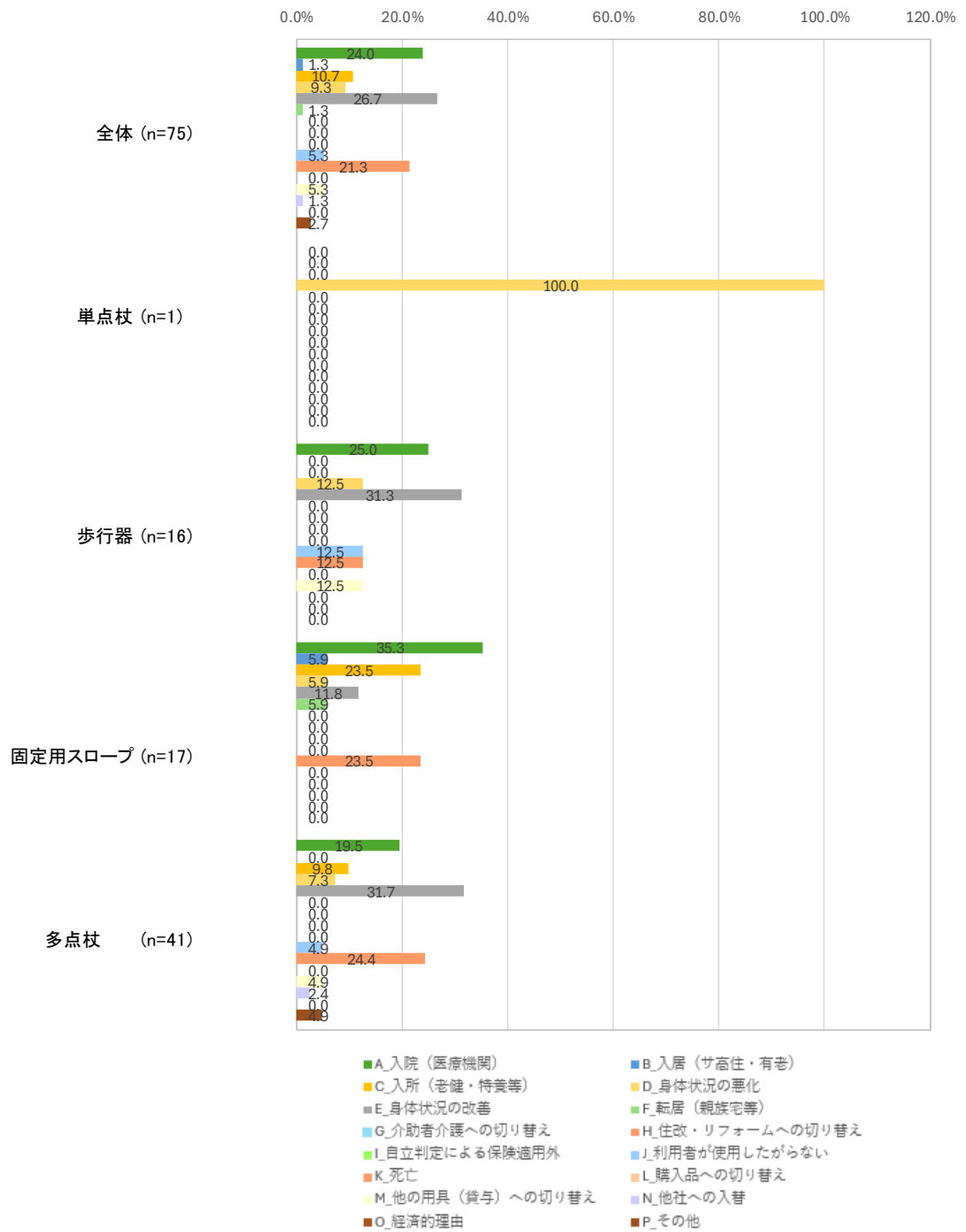
第2回調査(6か月後)の貸与継続から第3回調査(12か月後)までの間に貸与を中止(福祉用具の回収)した理由は、「身体状況の改善」20件(26.7%)、「入院」18件(24.0%)、「死亡」16件(21.3%)と多かった。

図表 1-08

回収した理由

	調査数	A 機 関 - 入 院 ( 医 療)	B 住 ・ 有 老 居 ( サ 高)	C 健 ・ 特 養 等 入 所 ( 老)	D 悪 化 - 身 体 状 況 の	E 改 善 - 身 体 状 況 の	F 宅 等 ( 転 居 - 親 族)	G へ の 切 り 替 え 介 助 者 介 護	H フ ォ ー ム へ の 切 替 え 住 改 ・ リ 切
全体	75 100.0	18 24.0	1 1.3	8 10.7	7 9.3	20 26.7	1 1.3	-	-
調査対象用具	単点杖	1 100.0	-	-	-	1 100.0	-	-	-
	歩行器	16 100.0	4 25.0	-	-	2 12.5	5 31.3	-	-
	固定用スロープ	17 100.0	6 35.3	1 5.9	4 23.5	1 5.9	2 11.8	1 5.9	-
	多点杖	41 100.0	8 19.5	-	4 9.8	3 7.3	13 31.7	-	-

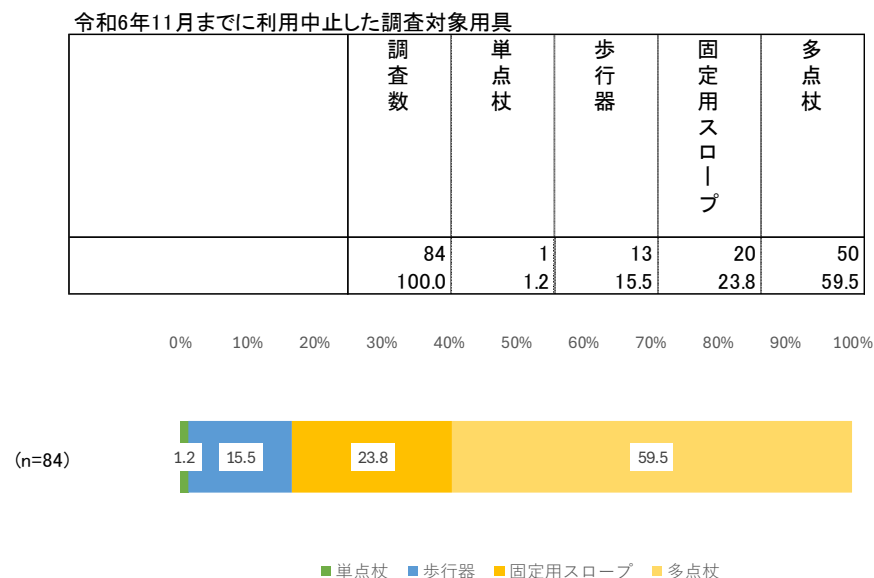
	I よ る 保 険 立 判 定 外 に	J 用 し た が 利 用 者 が な い	K 死 亡	L 切 り 替 え 購 入 品 へ の	M り ( 貸 与 - 他 の 用 具 切 替 え へ の)	N 替 他 社 へ の 入	O - 経 済 的 理 由	P - そ の 他
全体	-	4 5.3	16 21.3	-	4 5.3	1 1.3	-	2 2.7
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-	-	-	-
	歩行器	-	2 12.5	2 12.5	-	2 12.5	-	-
	固定用スロープ	-	-	4 23.5	-	-	-	-
	多点杖	-	2 4.9	10 24.4	-	2 4.9	1 2.4	2 4.9



## 2.1.2 福祉用具貸与の中止(福祉用具の回収)の状況

第2回調査(6か月後)時点で、死亡以外の理由で貸与中止となった者は84名であり、種目別では「多点杖」50名、「固定用スロープ」20名、「歩行器」13名、「単点杖」1名であった。

図表 1-09



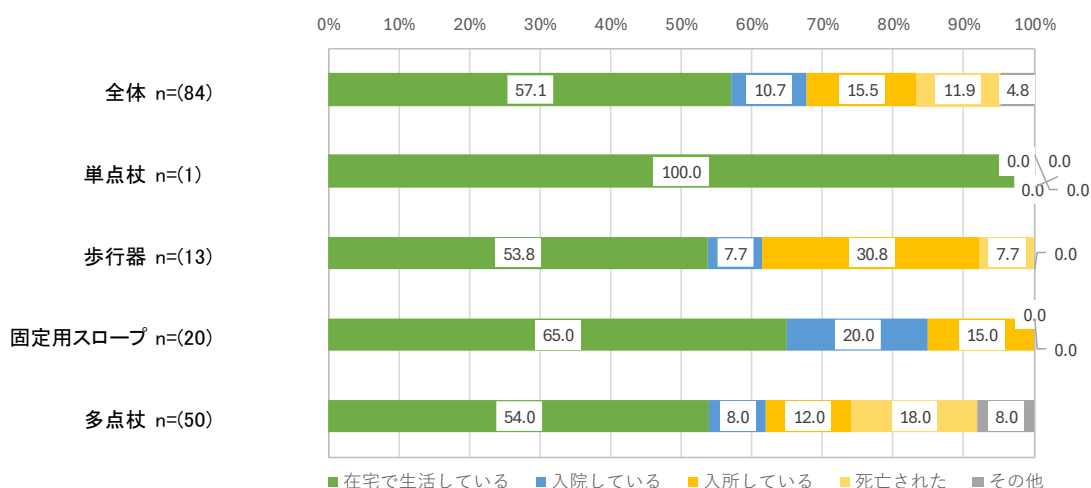
### 1. 貸与中止(福祉用具の回収)した利用者の状況

貸与を中止した利用者の現在の状況は、全体として「在宅で生活している」57.1%で最も多かった。種目別でも同様に「在宅で生活している」が最も多かった。

図表 1-10

利用者の現在の状況

	調査数	在宅で生活している	入院している	入所している	死亡された	その他
全体	84	48	9	13	10	4
	100.0	57.1	10.7	15.5	11.9	4.8
令和6年11月までに調査対象とした	単点杖	1	1	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-
	歩行器	13	7	1	4	1
		100.0	53.8	7.7	30.8	7.7
固定用スロープ	20	13	4	3	-	-
	100.0	65.0	20.0	15.0	-	-
多点杖	50	27	4	6	9	4
	100.0	54.0	8.0	12.0	18.0	8.0



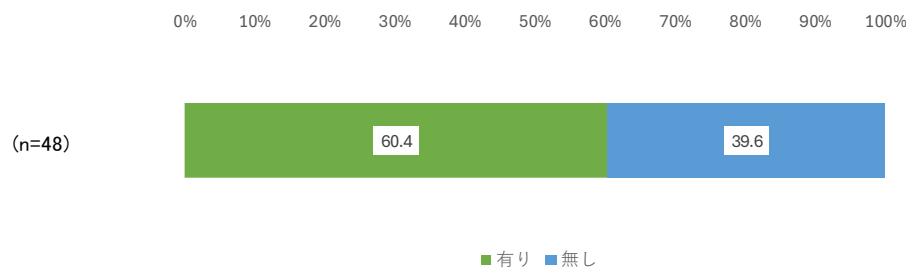
## 2. 貸与中止(福祉用具の回収)した利用者の現在における福祉用具の利用

貸与を中止した利用者の現在における福祉用具の利用有無は「有り」60.4%、「無し」39.6%で、使用している福祉用具は「手すり(貸与)」が最も多く 65.5%で、次いで「歩行器(貸与)」が 62.1%であった。

図表 1-11

現在における福祉用具の利用有無

	調査数	有り	無し
	48	29	19
	100.0	60.4	39.6

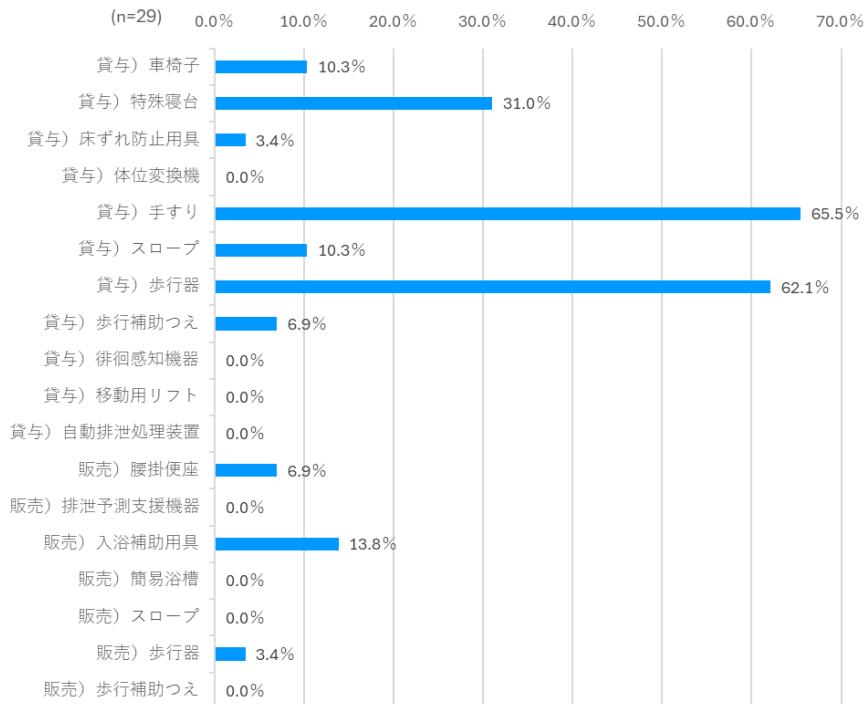


図表 1-12

現在利用している福祉用具

	調査数	貸与 (車椅子)	貸与 (特殊寝台)	貸与 (床ずれ防 止用具)	貸与 (体位変換 機)	貸与 (手すり)	貸与 (スロープ)	貸与 (歩行器)	貸与 (歩行補助 つえ)	貸与 (徘徊感知 機器)
	29 100.0	3 10.3	9 31.0	1 3.4	- -	19 65.5	3 10.3	18 62.1	2 6.9	- -

	貸与 (移動用リ フト)	貸与 (自動排 泄処理装 置)	販売 (腰掛便 座)	販売 (排泄予 測支援機 器)	販売 (入浴補 助用具)	販売 (簡易浴 槽)	販売 (スロー プ)	販売 (歩行器)	販売 (歩行補 助つえ)
	- -	- -	2 6.9	- -	4 13.8	- -	- -	1 3.4	- -



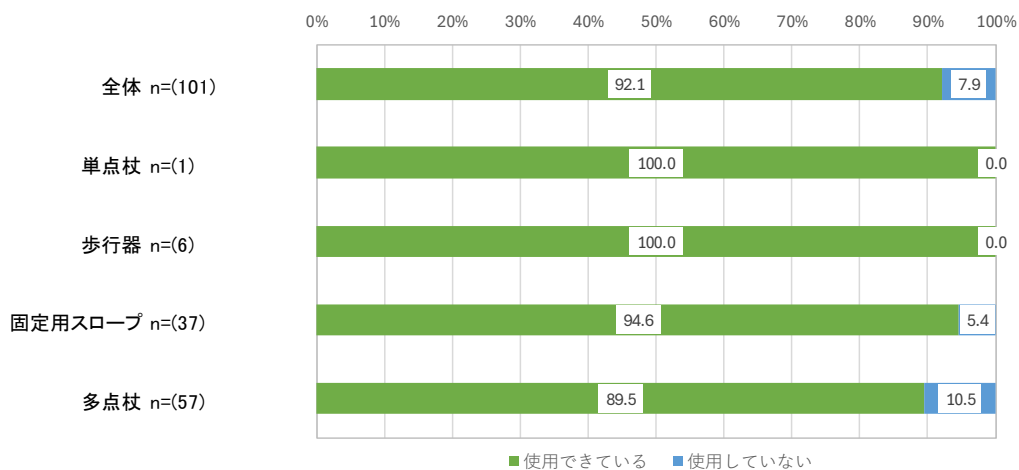
### 2.1.3 福祉用具販売の継続の状況

第2回調査(6か月後)時点で販売継続だった101名における第3回調査(12か月後)時点の状況は、「使用できている」93名、「使用していない」8名であった。

図表 1-13

調査対象福祉用具の使用状況

		調査数	使用できている	使用していない
全体		101 100.0	93 92.1	8 7.9
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	— —
	歩行器	6 100.0	6 100.0	— —
	固定用スロープ	37 100.0	35 94.6	2 5.4
	多点杖	57 100.0	51 89.5	6 10.5

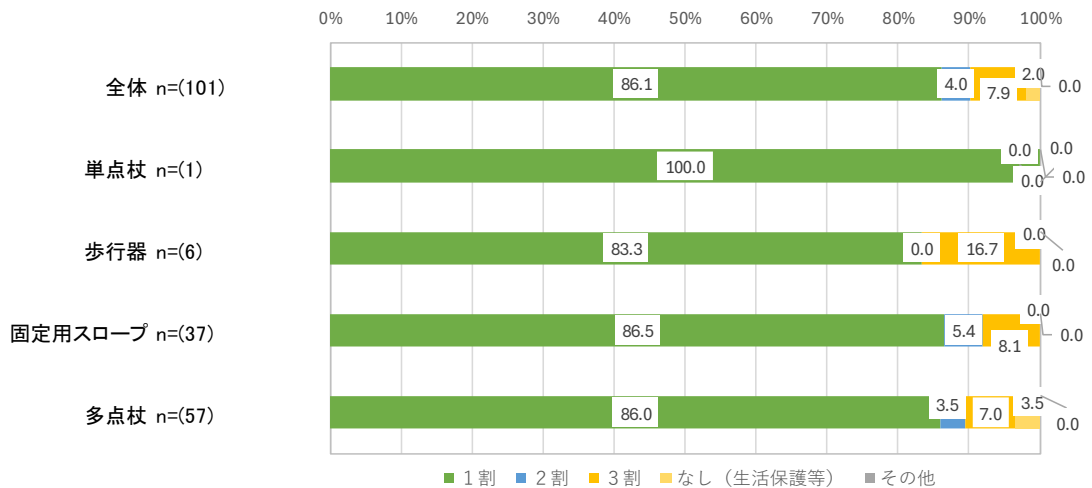


## 1. 自己負担割合

販売使用継続している利用者の自己負担割合は、全体として「1割」86.1%で最も多かった。種目別でも、「単点杖」が「1割」100.0%、「歩行器」が「1割」83.3%、「固定用スロープ」が「1割」86.5%、「多点杖」が「1割」86.0%でいずれも「1割」が最も多かった。

図表 1-14

		調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	その他
全体		101 100.0	87 86.1	4 4.0	8 7.9	2 2.0	-
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
	歩行器	6 100.0	5 83.3	-	1 16.7	-	-
	固定用スロープ	37 100.0	32 86.5	2 5.4	3 8.1	-	-
	多点杖	57 100.0	49 86.0	2 3.5	4 7.0	2 3.5	-



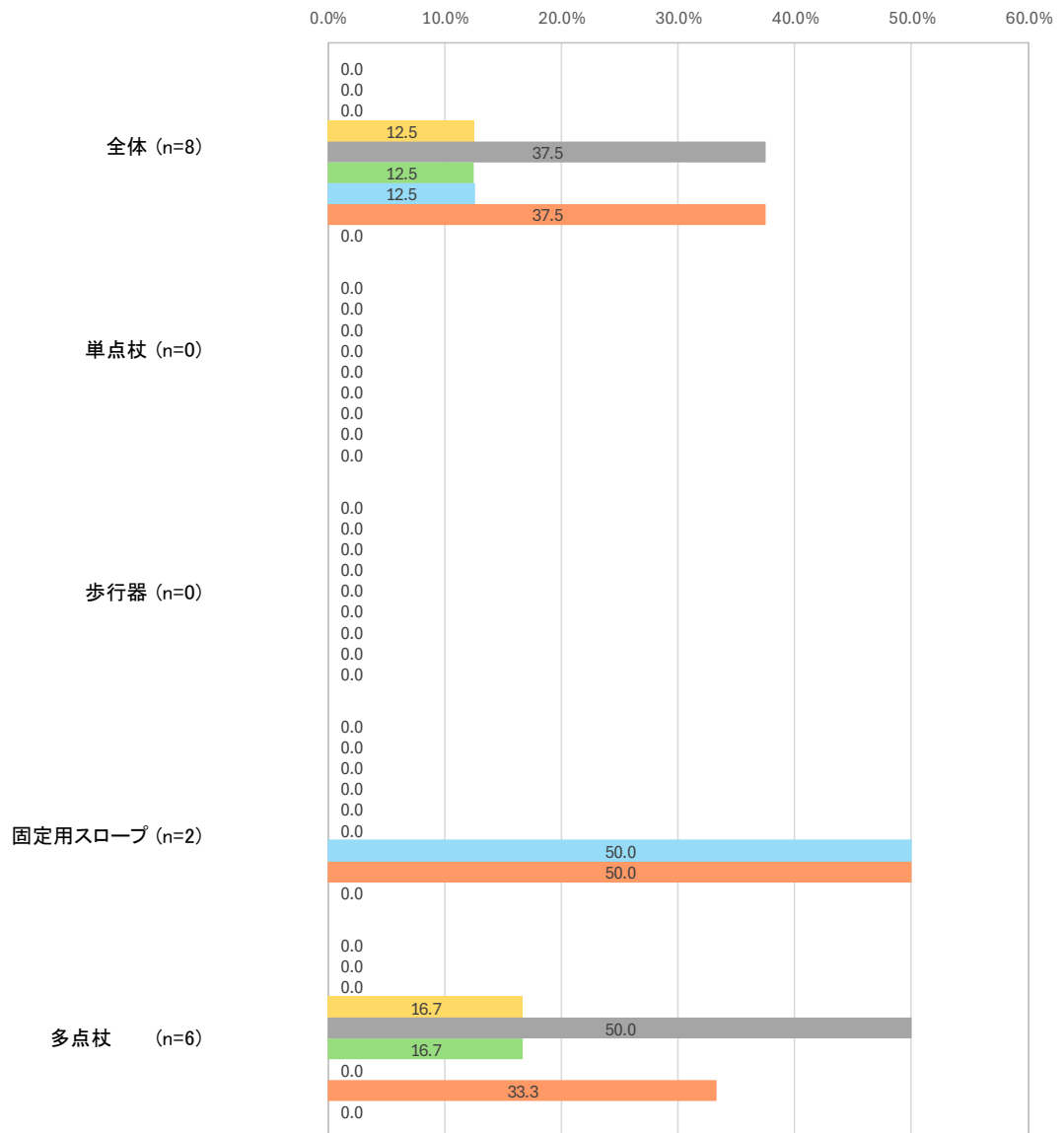
## 2. 使用できていない理由

第2回調査(6か月後)時点で販売継続であったが第3回調査(12か月後)時点では「使用していない」8名について、使用していない理由は全体では「身体の状態が悪くなったから」と「ご利用者様が死亡したから」が同率で最も多く37.5%であった。

図表 1-15

使用できていない理由

		調査数	い用具が使いづら	い用具の調子が悪	ら用具が壊れたか	く身体の状態が良	く身体の状態が悪	院ご利用者様が入	所ご利用者様が入	亡ご利用者様が死	その他
全体		8 100.0	-	-	-	1 12.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	3 37.5	-
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	歩行器	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	固定用スロープ	2 100.0	-	-	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0	-
	多点杖	6 100.0	-	-	-	1 16.7	3 50.0	1 16.7	-	2 33.3	-



- 用具が使いづらいから
- 用具の調子が悪いから
- 用具が壊れたから
- 身体の状態が悪くなったから
- 身体の状態が良くなったから
- ご利用様が入院したから
- ご利用様が入所したから
- ご利用様が死亡したから
- その他

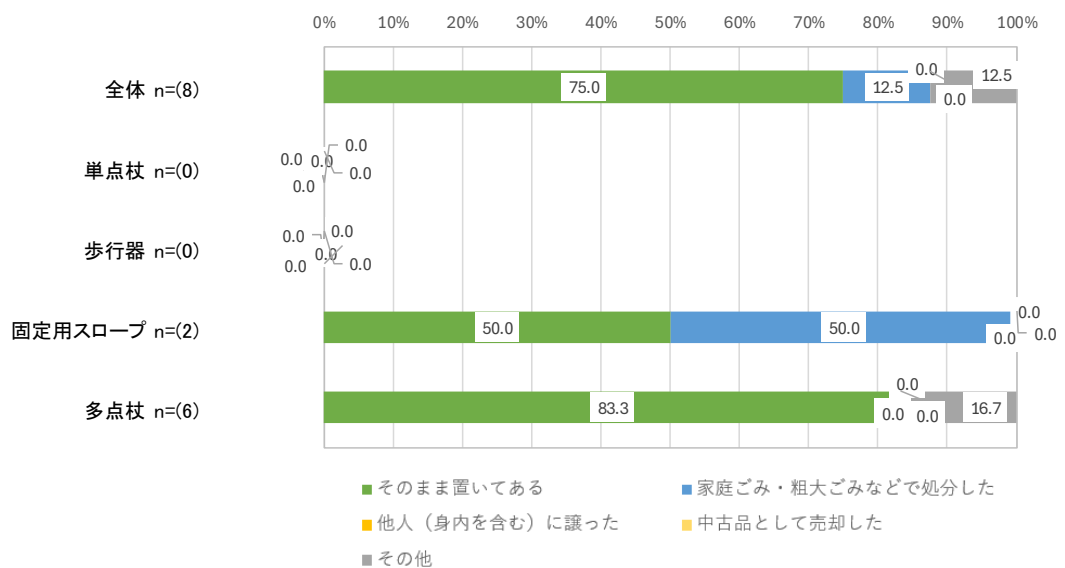
### 3. 使用していない用具

第2回調査(6か月後)時点で販売継続であったが第3回調査(12か月後)時点では「使用していない」8名の用具は、全体として「そのまま置いてある」が75.0%で最も多かった。

図表 1-16

使用していない用具はどうされましたか。

		調査数	そのまま置いてある	家庭ごみ・粗大ごみなどで処分した	他人(身内を含む)に譲った	中古品として売却した	その他
全体		8	6	1	-	-	1
		100.0	75.0	12.5	-	-	12.5
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-	-	-
	歩行器	-	-	-	-	-	-
	固定用スロープ	2	1	1	-	-	-
		100.0	50.0	50.0	-	-	-
	多点杖	6	5	-	-	-	1
		100.0	83.3	-	-	-	16.7



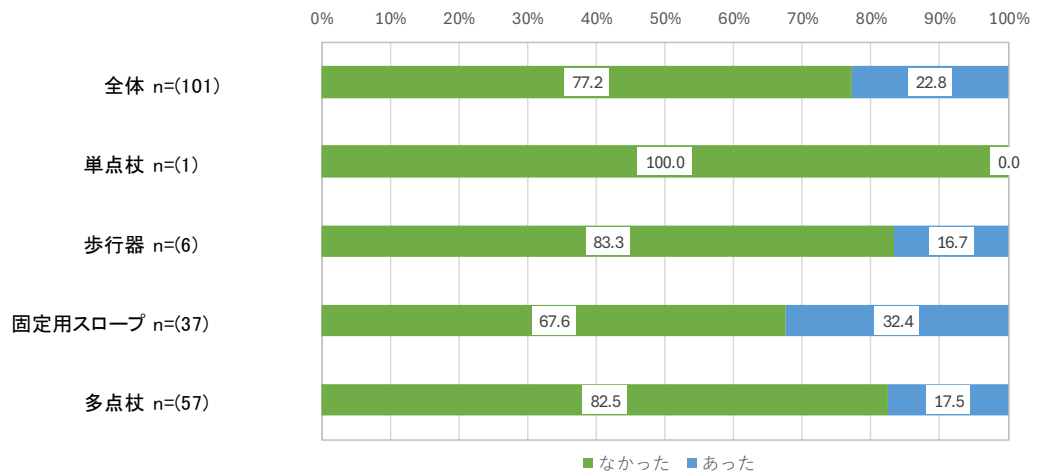
## 4. 入院や入所

販売使用継続している利用者の1年間の入院や入所の有無は、全体として「なかった」77.2%、「あった」22.8%であった。

図表 1-17

この1年の間に、入院や入所はありましたか。

		調査数	なかった	あった
全体		101	78	23
		100.0	77.2	22.8
調査対象用具	単点杖	1	1	-
		100.0	100.0	-
	歩行器	6	5	1
		100.0	83.3	16.7
固定用スロープ	37	25	12	
	100.0	67.6	32.4	
多点杖	57	47	10	
	100.0	82.5	17.5	

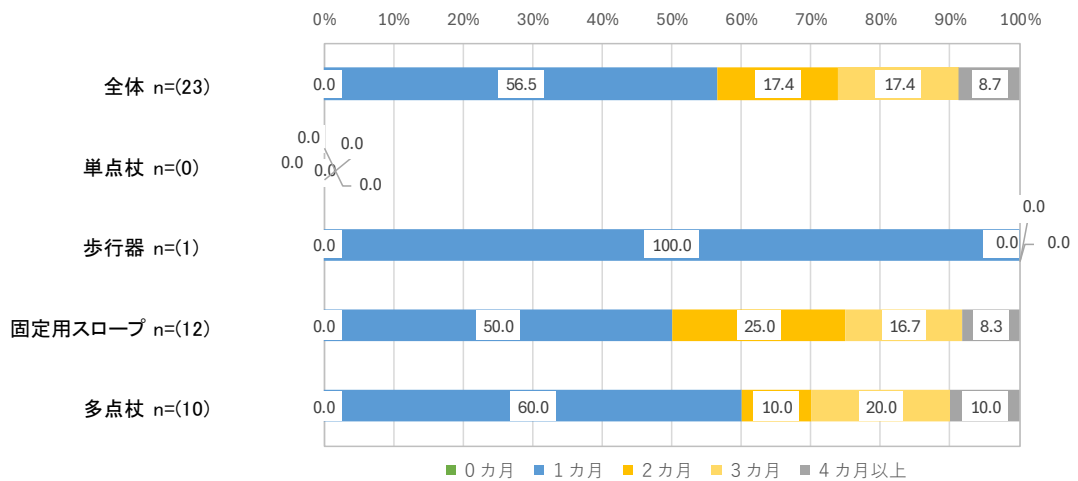


令和6年11月時点で販売使用継続している利用者の1年間の入院や入所の期間は、全体として「1か月」が最も多く56.5%であった。個別で見ても、「単点杖」は利用者がおらず、「歩行器」が「1か月」で100.0%、「固定用スロープ」が「1か月」で50.0%、「多点杖」が「1か月」で60.0%、いずれも「1か月」が最も多かった。全体の平均期間は1.78か月で、個別で見ると「歩行器」が1.00か月、「固定用スロープ」が1.83か月、「多点杖」が1.80か月であった。

図表 1-18

この1年間の入院や入所の期間(合計何カ月)

		調査数	0 カ 月	1 カ 月	2 カ 月	3 カ 月	4 カ 月 以上
全体		23 100.0	- -	13 56.5	4 17.4	4 17.4	2 8.7
調査対象用具	単点杖	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	歩行器	1 100.0	- -	1 100.0	- -	- -	- -
	固定用スロープ	12 100.0	- -	6 50.0	3 25.0	2 16.7	1 8.3
	多点杖	10 100.0	- -	6 60.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0



図表 1-19

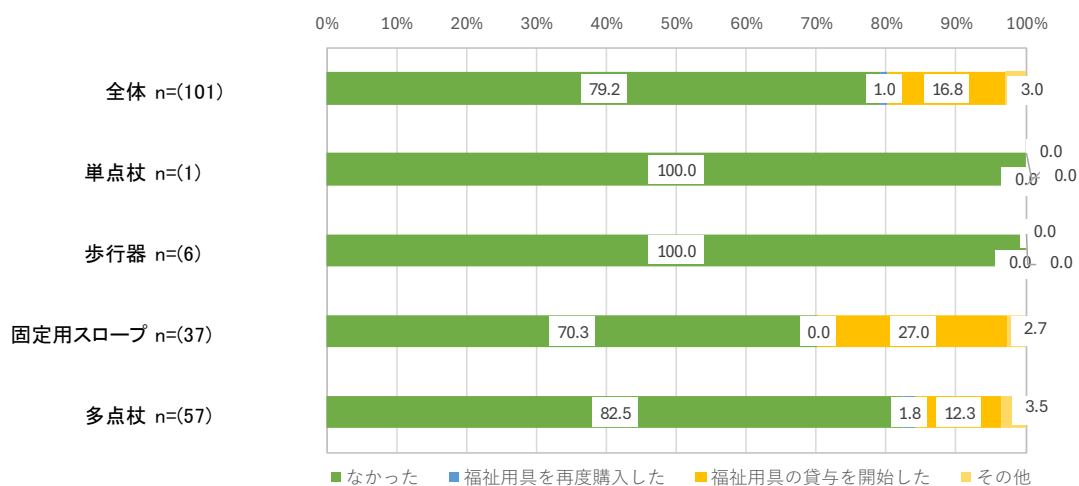
合計何カ月		調査数	平均	最小値	最大値
全体		23	1.78	1.00	4.00
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-
	歩行器	1	1.00	1.00	1.00
	固定用スロープ	12	1.83	1.00	4.00
	多点杖	10	1.80	1.00	4.00

## 5. 福祉用具の再購入や新たな利用開始の有無

販売使用継続している利用者の1年間に福祉用具の再購入や新たな利用開始の有無は、全体として「なかった」が79.2%で最も多かった。種目別でも、「単点杖」が「なかった」100.0%、「歩行器」が「なかった」100.0%、「固定用スロープ」が「なかった」70.3%、「多点杖」が「なかった」82.5%でいずれも「なかった」が最も多かった。

図表 1-20

この1年の間に、福祉用具の再購入や新たな利用開始はありましたか。		調査数	なかった	福祉用具を再度購入した	福祉用具の貸与を開始した	その他
全体		101	80	1	17	3
		100.0	79.2	1.0	16.8	3.0
調査対象用具	単点杖	1	1	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-
	歩行器	6	6	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-
固定用スロープ	37	26	-	10	1	
	100.0	70.3	-	27.0	2.7	
多点杖	57	47	1	7	2	
	100.0	82.5	1.8	12.3	3.5	



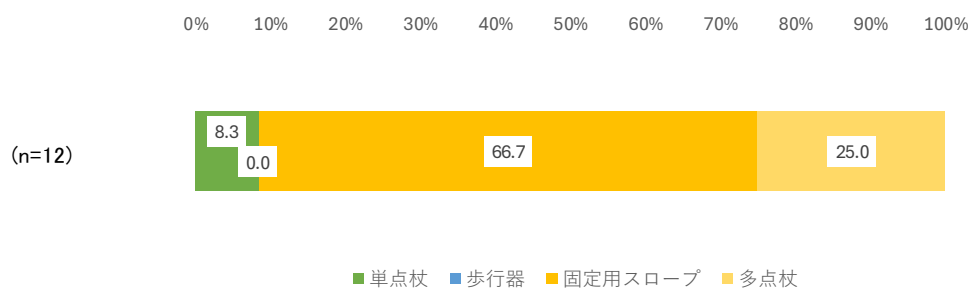
## 2.1.4 福祉用具販売の中止の状況

令和6年11月時点で販売使用中止している利用者の令和7年5月時点の調査対象用具は、「固定用スロープ」が最も多く66.7%であった。

図表 1-21

令和6年11月までに利用中止した調査対象用具

	調査数	単点杖	歩行器	固定用スロープ	多点杖
	12	1	-	8	3
	100.0	8.3	-	66.7	25.0



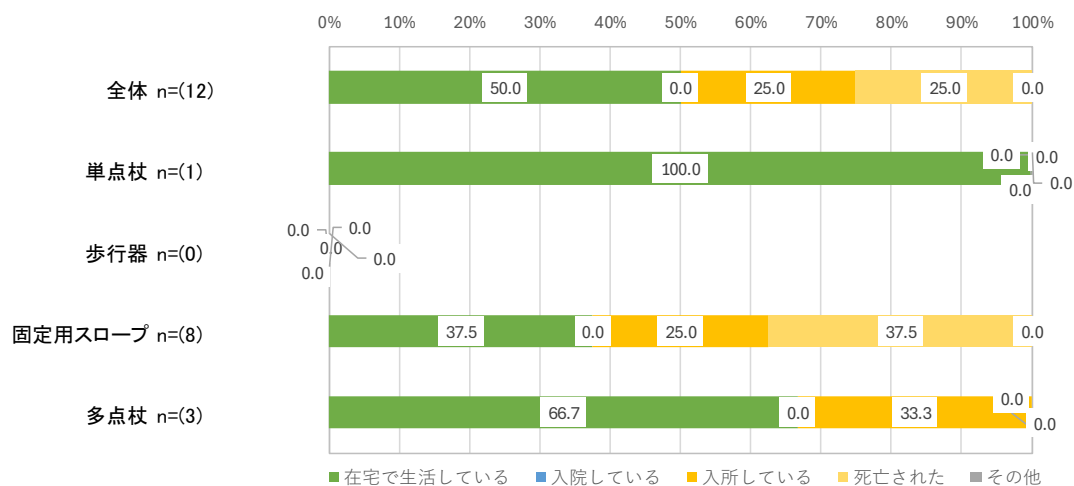
## 1. 利用者の現在の状況

販売使用中止している利用者の現在の状況は、全体として「在宅で生活している」が 50.0%で最も多かった。

図表 1-22

利用者の現在の状況

		調査数	在宅で生活している	入院している	入所している	死亡された	その他
全体		12 100.0	6 50.0	- -	3 25.0	3 25.0	- -
令和6年 1月 調査対象 利用中止 した 利用者	単点杖	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -	- -
	歩行器	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	固定用スロープ	8 100.0	3 37.5	- -	2 25.0	3 37.5	- -
	多点杖	3 100.0	2 66.7	- -	1 33.3	- -	- -



## 2. 現在の福祉用具の利用有無

販売使用中止している利用者の現在における福祉用具の利用有無は、「有り」が 83.3%、「無し」が 16.7%であった。

図表 1-23

現在における福祉用具の利用有無

	調査数	有り	無し
	6	5	1
	100.0	83.3	16.7

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

(n=6)



■ 有り ■ 無し

### 3. 現在利用している福祉用具

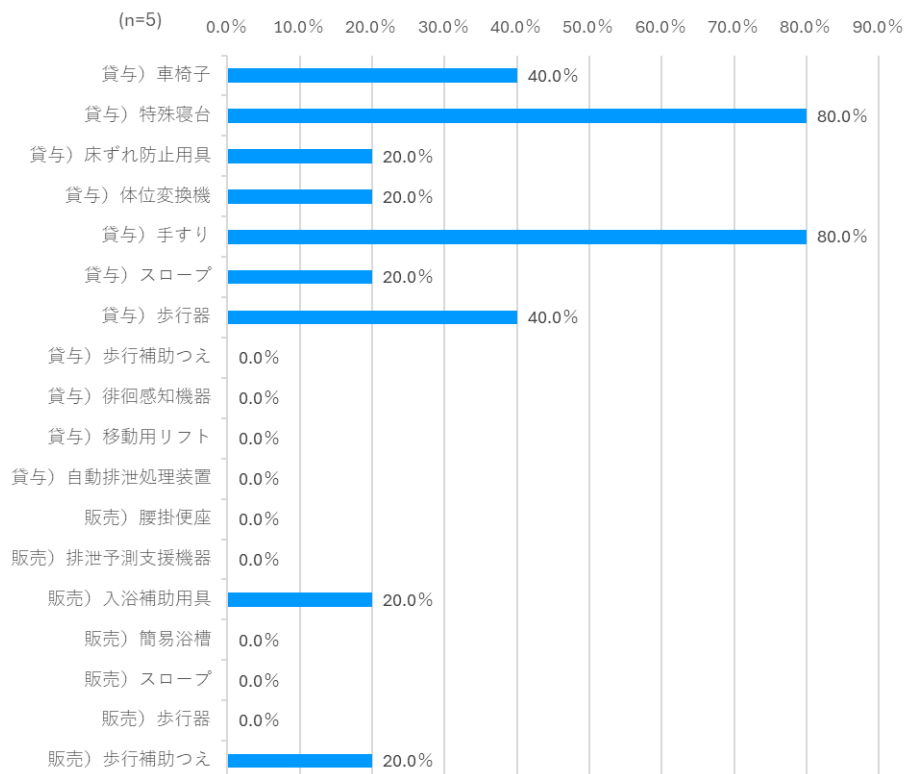
調査対象福祉用具は販売後使用中止して、令和7年5月時点で別の福祉用具を利用している利用者の福祉用具は、「特殊寝台(貸与)」と「手すり(貸与)」が最も多く同率で80.0%であった。

図表 1-24

現在利用している福祉用具

	調査数	貸与(車椅子)	貸与(特殊寝台)	貸与(床ずれ防止用具)	貸与(体位変換機)	貸与(手すり)	貸与(スロープ)	貸与(歩行器)	貸与(歩行補助つえ)	貸与(徘徊感知機器)
	5 100.0	2 40.0	4 80.0	1 20.0	1 20.0	4 80.0	1 20.0	2 40.0	-	-

	貸与(移動用リフト)	貸与(自動排泄処理装置)	販売(腰掛便座)	販売(排泄予測支援機器)	販売(入浴補助用具)	販売(簡易浴槽)	販売(スロープ)	販売(歩行器)	販売(歩行補助つえ)
	-	-	-	-	1 20.0	-	-	-	1 20.0



## 2.2 第4回調査:18か月後(令和7年11月実施)

令和6年5月に貸与を選択した利用者343名のうち、18か月後の令和7年11月に貸与を継続した者は116名(33.8%)で、貸与から販売(購入)に変更した者19名(5.5%)、利用を中止した者は208名(60.6%)であった。

令和6年5月に販売(購入)を選択した120名のうち継続利用している者は81名(67.5%)、中止した者39名(32.5%)であった。

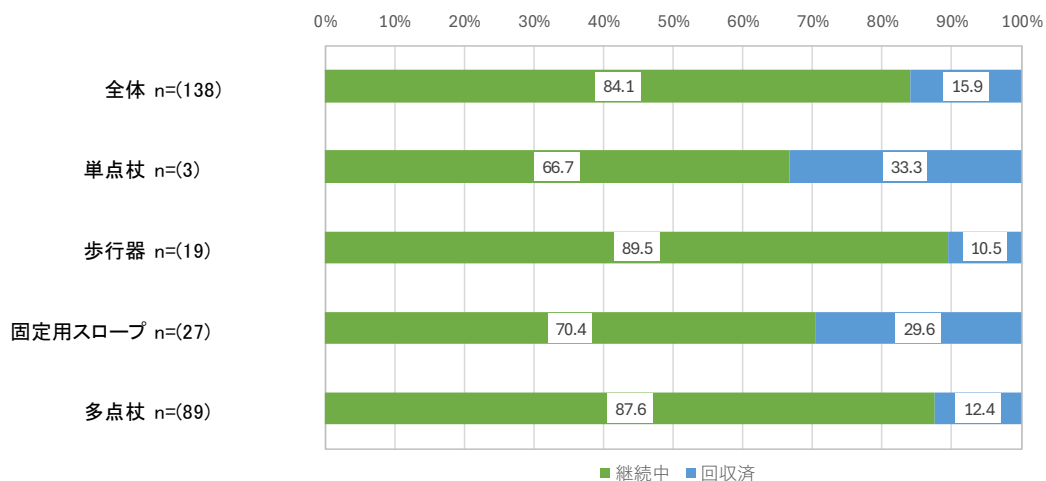
### 2.2.1 福祉用具貸与の継続の状況

第3回調査(12か月後)時点で貸与継続だった138名における第4回調査(18か月後)時点の状況は、継続中が116名、回収済が22名であった。

図表 2-01

モニタリング実施又は全て回収時点の状況について

		調査数	継続中	回収済
全体		138	116	22
		100.0	84.1	15.9
調査対象用具	単点杖	3	2	1
		100.0	66.7	33.3
	歩行器	19	17	2
		100.0	89.5	10.5
	固定用スロープ	27	19	8
		100.0	70.4	29.6
	多点杖	89	78	11
		100.0	87.6	12.4



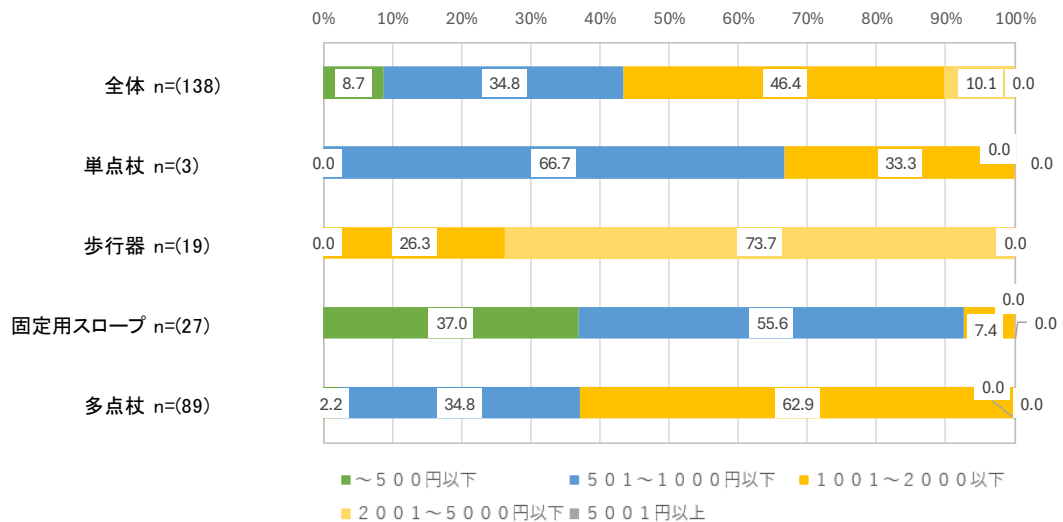
## 1. 調査対象用具1個あたりのレンタル料金

調査対象用具1個あたりのレンタル料金は、全体として「1,001～2,000円」が46.4%で最も多かった。種目別では、「単点杖」が「501～1,000円」66.7%、「歩行器」は「2,001～5,000円」73.7%、「固定用スロープ」が「501～1,000円」55.6%、「多点杖」が「1,001～2,000円」62.9%と最も多かった。全体の平均金額は1,154円で、個別で見ると「単点杖」1,007円、「歩行器」2,146円、「固定用スロープ」590円、「多点杖」1,119円であった。

図表 2-02

調査対象用具1個あたりのレンタル料金

		調査数	500円以下	501～1000円以下	1001～2000円以下	2001～5000円以下	5001円以上
全体		138 100.0	12 8.7	48 34.8	64 46.4	14 10.1	-
調査対象用具	単点杖	3 100.0	-	2 66.7	1 33.3	-	-
	歩行器	19 100.0	-	-	5 26.3	14 73.7	-
	固定用スロープ	27 100.0	10 37.0	15 55.6	2 7.4	-	-
	多点杖	89 100.0	2 2.2	31 34.8	56 62.9	-	-



図表 2-03

調査対象用具1個あたりのレンタル料金

		調査数	平均	最小値	最大値
全体		138	1,154	300	2,700
調査対象用具	単点杖	3	1,007	1,000	1,020
	歩行器	19	2,146	1,180	2,700
	固定用スロープ	27	590	300	1,200
	多点杖	89	1,119	500	1,280

## 2. TAIS 希望小売価格

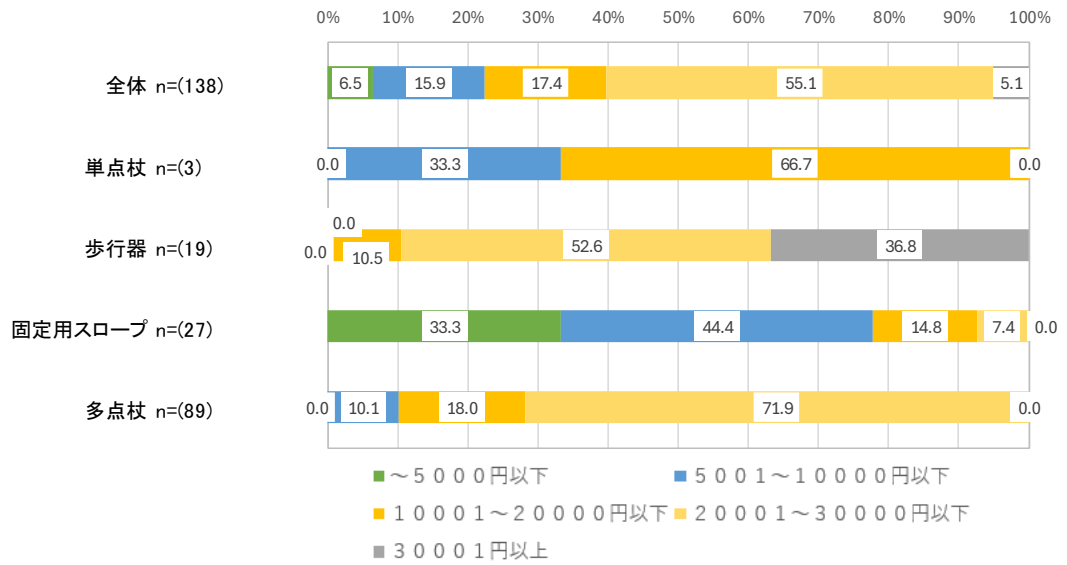
TAIS 希望小売価格は、全体として「20,001 円～30,000 円」が 55.1%で最も多かった。種目別では、「単点杖」が「10,001 円～20,000 円」66.7%、「歩行器」が「20,001 円～30,000 円」52.6%、「固定用スロープ」が「5,001 円～10,000 円」44.4%、「多点杖」が「20,001 円～30,000 円」71.9%と最も多かった。

全体の平均価格は 18,415 円で、種目別で見ると「単点杖」11,700 円、「歩行器」29,837 円、「固定用スロープ」7,837 円、「多点杖」19,412 円であった。

図表 2-04

TAIS希望小売価格

		調査数	下 5 0 0 0 円 以	下 5 0 0 0 円 以	0 5 0 0 0 0 円 1 以	0 1 0 0 0 0 円 1 以	0 2 0 0 0 0 円 1 以	上 3 0 0 0 0 円 以
全体		138 100.0	9 6.5	22 15.9	24 17.4	76 55.1	7 5.1	
調査対象用具	単点杖	3 100.0	-	1 33.3	2 66.7	-	-	
	歩行器	19 100.0	-	-	2 10.5	10 52.6	7 36.8	
	固定用スロープ	27 100.0	9 33.3	12 44.4	4 14.8	2 7.4	-	
	多点杖	89 100.0	-	9 10.1	16 18.0	64 71.9	-	



図表 2-05

TAIS希望小売価格

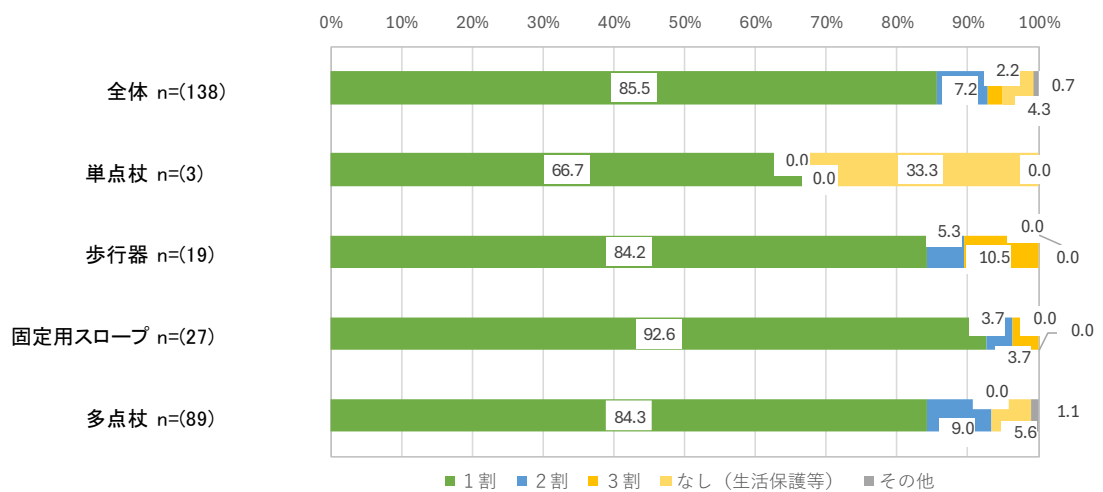
		調査数	平均	最小値	最大値
全体		138	18,415	3,500	44,800
調査対象用具	単点杖	3	11,700	7,200	16,000
	歩行器	19	29,837	18,800	44,800
	固定用スロープ	27	7,837	3,500	22,500
	多点杖	89	19,412	7,000	24,800

### 3. 自己負担割合

自己負担割合は、全体として「1割」が85.5%で最も多かった。種目別でも、「単点杖」が「1割」66.7%、「歩行器」は「1割」84.2%、「固定用スロープ」が「1割」92.6%、「多点杖」が「1割」84.3%と「1割」が最も多かった。

図表 2-06

		調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	その他
全体		138	118	10	3	6	1
		100.0	85.5	7.2	2.2	4.3	0.7
調査対象用具	単点杖	3	2	-	-	1	-
		100.0	66.7	-	-	33.3	-
	歩行器	19	16	1	2	-	-
		100.0	84.2	5.3	10.5	-	-
固定用スロープ	27	25	1	1	-	-	
	100.0	92.6	3.7	3.7	-	-	
多点杖	89	75	8	-	5	1	
	100.0	84.3	9.0	-	5.6	1.1	



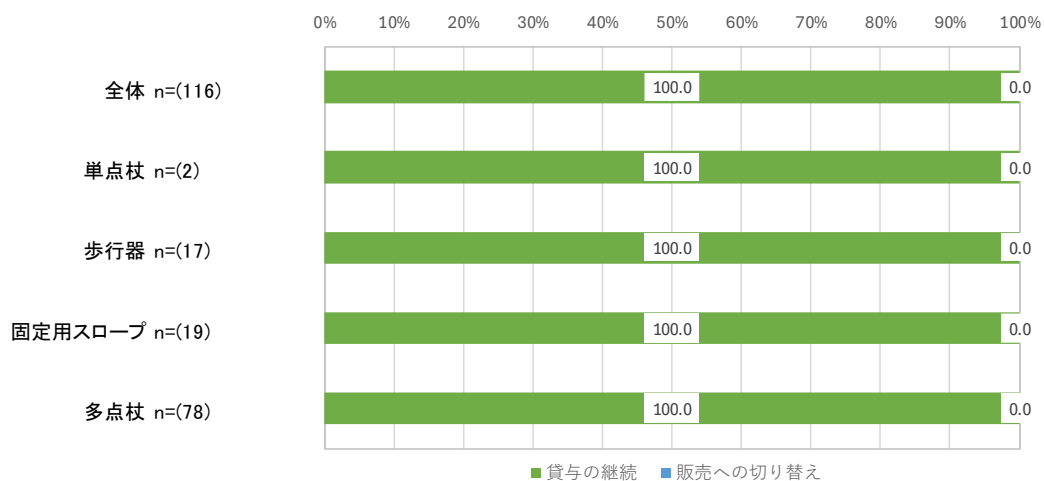
## 4. 貸与継続の検討の結果

貸与継続の検討の結果は、全体として「貸与の継続」100.0%であった。

図表 2-07

貸与継続の検討の結果

		調査数	貸与の継続	え 販売への切り替
全体		116 100.0	116 100.0	- -
調査対象用具	単点杖	2 100.0	2 100.0	- -
	歩行器	17 100.0	17 100.0	- -
	固定用スロープ	19 100.0	19 100.0	- -
	多点杖	78 100.0	78 100.0	- -



## 5. 貸与中止(福祉用具の回収)の理由

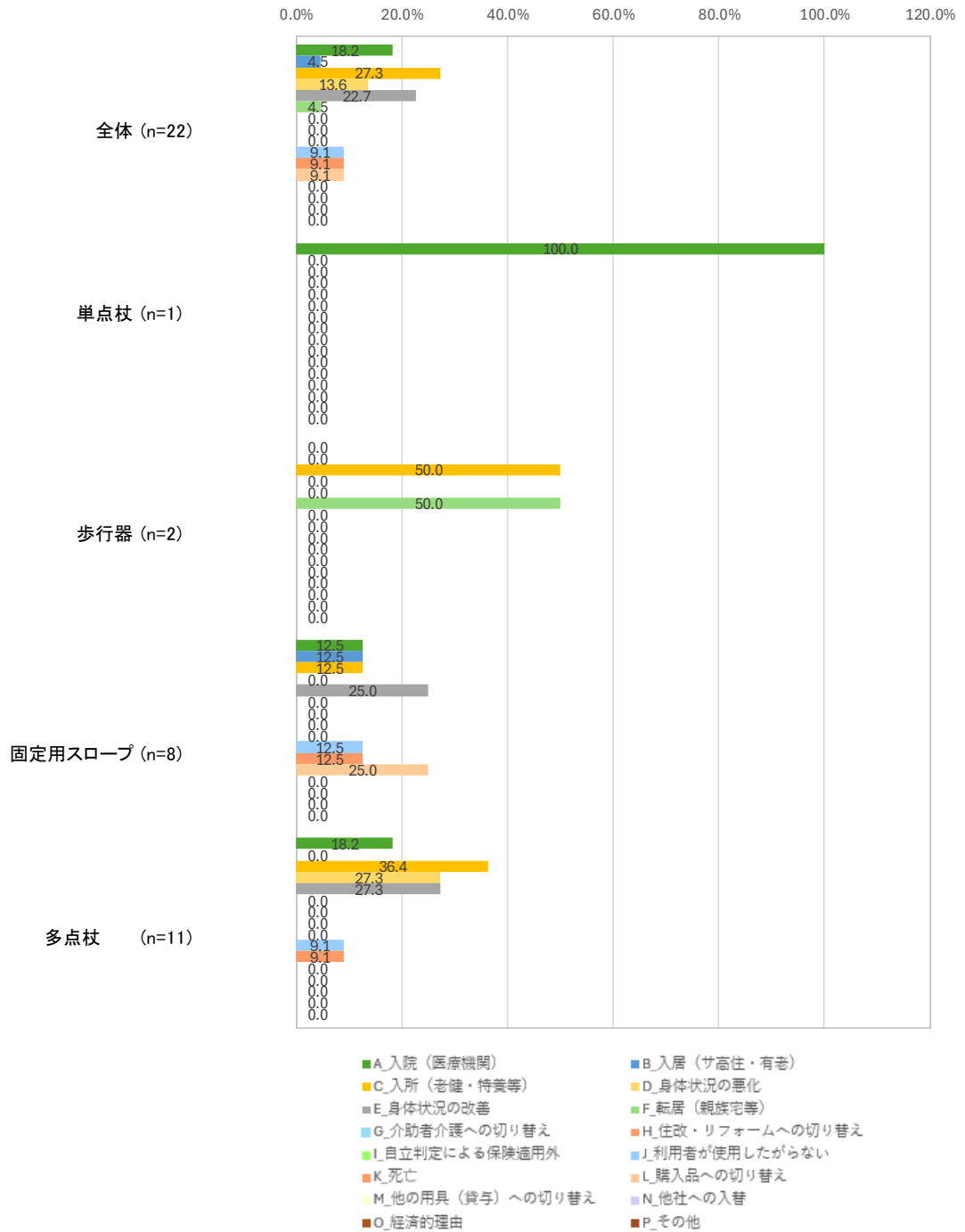
第3回調査(12か月後)の貸与継続から第4回調査(18か月後)までの間に貸与を中止(福祉用具の回収)した理由は、「入所」6件(27.3%)、「身体状況の改善」5件(22.7%)、「入院」4件(18.2%)と多かった。

図表 2-08

回収した理由

	調査数	A 機 関 入 院 ( 医 療 )	B 住 ・ 有 老 入 居 ( サ 高 )	C 健 ・ 特 養 等 入 所 ( 老 )	D 悪 化 身 体 状 況 の	E 改 善 身 体 状 況 の	F 宅 等 転 居 ( 親 族 )	G へ の 切 り 替 え 介 助 者 介 護	H フ ォ ー ム 改 ・ 住 改 ・ 住 切 り 替 え
全体	22 100.0	4 18.2	1 4.5	6 27.3	3 13.6	5 22.7	1 4.5	-	-
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-
	歩行器	2 100.0	-	-	1 50.0	-	1 50.0	-	-
	固定用スロープ	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	2 25.0	-	-
	多点杖	11 100.0	2 18.2	-	4 36.4	3 27.3	3 27.3	-	-

	I よ る 保 険 立 判 適 用 定 外 に	J 用 し た が ら な い 使 用 者 が 使 	K 死 亡	L 切 り 替 え 購 入 品 へ の	M り 替 え ( 貸 与 へ の 切 り 替 え )	N 替 他 社 へ の 入	O 経 済 的 理 由	P そ の 他
全体	-	2 9.1	2 9.1	2 9.1	-	-	-	-
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-	-	-	-
	歩行器	-	-	-	-	-	-	-
	固定用スロープ	-	1 12.5	1 12.5	2 25.0	-	-	-
	多点杖	-	1 9.1	1 9.1	-	-	-	-



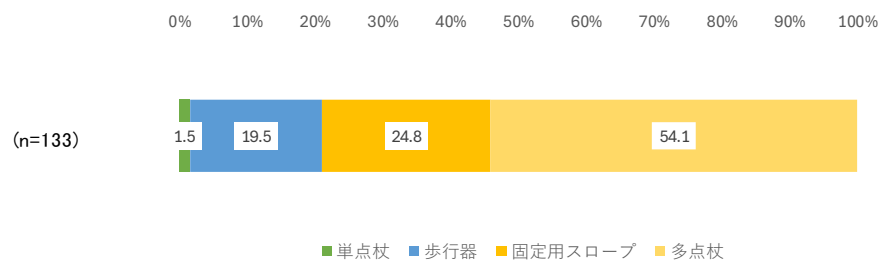
## 2.2.2 福祉用具貸与の中止(福祉用具の回収)の状況

第3回調査(12か月後)時点で、死亡以外の理由で貸与中止となった者は133名であり、種目別では「多点杖」72名、「固定用スロープ」33名、「歩行器」26名、「単点杖」2名であった。

図表 2-09

令和7年5月までに利用中止した調査対象用具

	調査数	単点杖	歩行器	固定用スロープ	多点杖
	133	2	26	33	72
	100.0	1.5	19.5	24.8	54.1



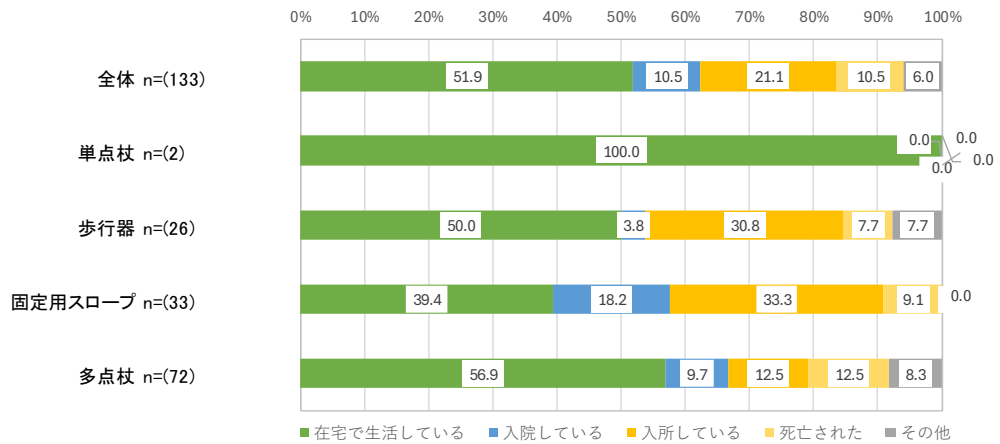
### 1. 貸与中止(福祉用具の回収)した利用者の状況

貸与を中止した利用者の現在の状況は、全体として「在宅で生活している」51.9%で最も多かった。種目別でも同様に「在宅で生活している」が最も多かった。

図表 2-10

利用者の現在の状況

	調査数	在宅で生活している	入院している	入所している	死亡された	その他
全体	133	69	14	28	14	8
	100.0	51.9	10.5	21.1	10.5	6.0
令和7年5月までに調査対象用具に	単点杖	2	2	-	-	-
		100.0	100.0	-	-	-
	歩行器	26	13	1	8	2
		100.0	50.0	3.8	30.8	7.7
固定用スロープ	33	13	6	11	3	-
	100.0	39.4	18.2	33.3	9.1	-
多点杖	72	41	7	9	9	6
	100.0	56.9	9.7	12.5	12.5	8.3



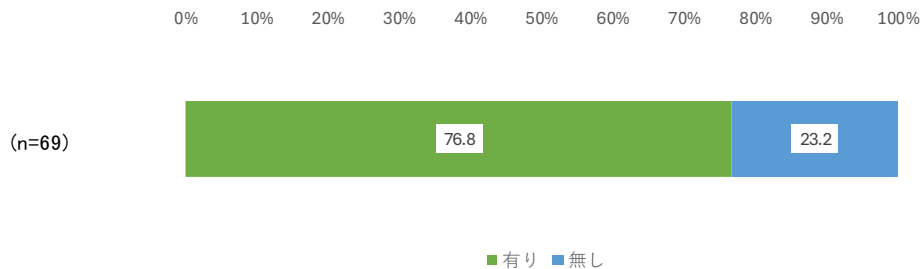
## 2. 貸与中止(福祉用具の回収)した利用者の現在における福祉用具の利用

貸与を中止した利用者の現在における福祉用具の利用有無は「有り」76.8%、「無し」23.2%で、使用している福祉用具は「手すり(貸与)」が最も多く 62.3%で、次いで「歩行器(貸与)」が 43.4%であった。

図表 2-11

現在における福祉用具の利用有無

	調査数	有り	無し
	69	53	16
	100.0	76.8	23.2

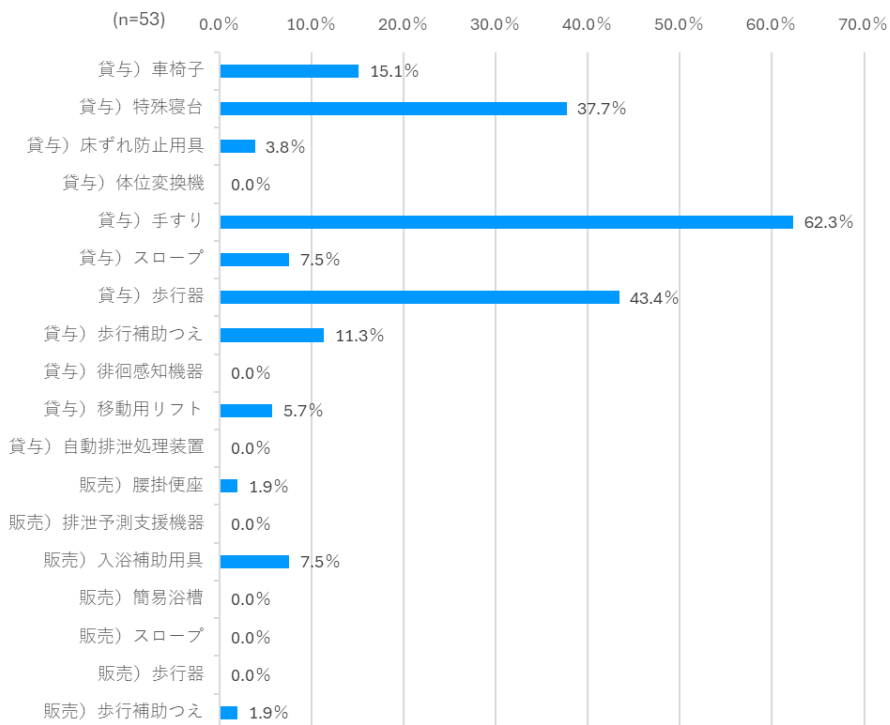


図表 2-12

現在利用している福祉用具

	調査数	貸与 (車椅子)	貸与 (特殊寝台)	貸与 (床ずれ防 止用具)	機 貸与 (体位変換 機)	貸与 (手すり)	貸与 (スロープ)	貸与 (歩行器)	つ 貸与 え (歩行補助)	機 貸与 器 (徘徊感知)
	53	8	20	2	-	33	4	23	6	-
	100.0	15.1	37.7	3.8	-	62.3	7.5	43.4	11.3	-

	フ 貸与 ト (移動用 リフト)	処 貸与 理 装 置 (自動排 泄処理装 置)	販 売 (腰掛便 座)	支 販 援 機 器 (排泄予 測)	販 売 (入浴補 助用具)	販 売 (簡易浴 槽)	販 売 (スロー プ)	販 売 (歩行器)	つ 販 売 え (歩行補 助)
	3	-	1	-	4	-	-	-	1
	5.7	-	1.9	-	7.5	-	-	-	1.9



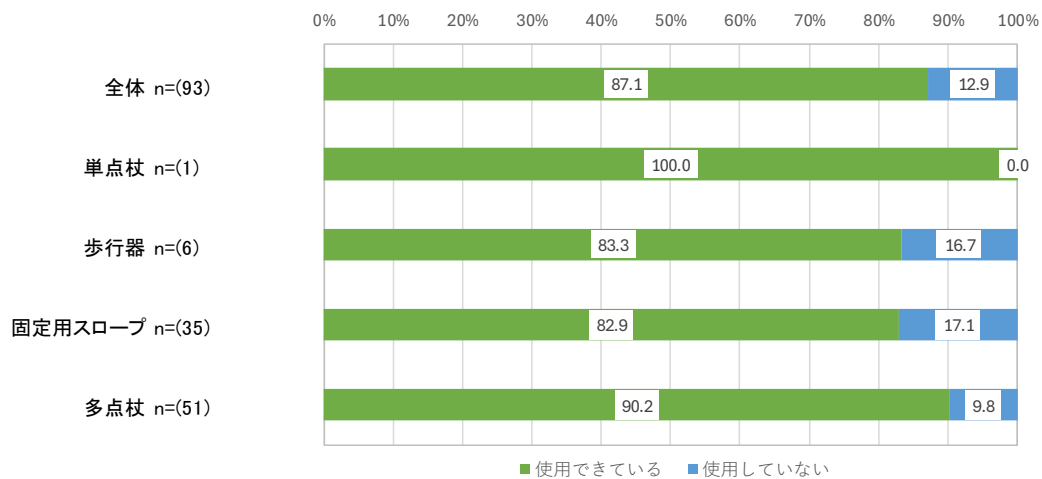
## 2.2.3 福祉用具販売の継続の状況

第3回調査(12か月後)時点で販売継続だった93名における第4回調査(18か月後)時点の状況は、「使用できている」81名、「使用していない」12名であった。

図表 2-13

調査対象福祉用具の使用状況

		調査数	使用できている	使用していない
全体		93 100.0	81 87.1	12 12.9
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	- -
	歩行器	6 100.0	5 83.3	1 16.7
	固定用スロープ	35 100.0	29 82.9	6 17.1
	多点杖	51 100.0	46 90.2	5 9.8

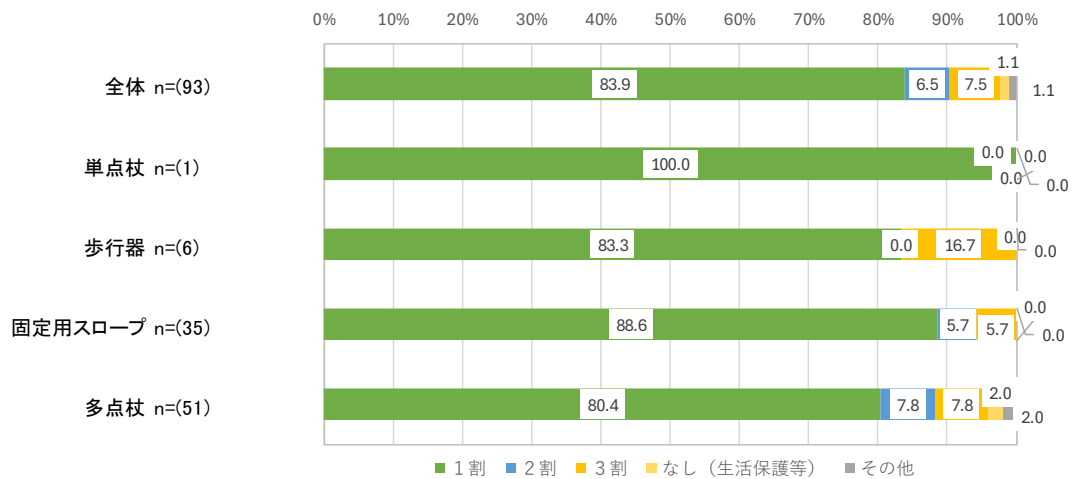


## 1. 自己負担割合

販売使用継続している利用者の自己負担割合は、全体として「1割」83.9%で最も多かった。種目別でも、「単点杖」が「1割」100.0%、「歩行器」が「1割」83.3%、「固定用スロープ」が「1割」88.6%、「多点杖」が「1割」80.4%でいずれも「1割」が最も多かった。

図表 2-14

		調査数	1割	2割	3割	等なし (生活保護)	その他
全体		93 100.0	78 83.9	6 6.5	7 7.5	1 1.1	1 1.1
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
	歩行器	6 100.0	5 83.3	-	1 16.7	-	-
	固定用スロープ	35 100.0	31 88.6	2 5.7	2 5.7	-	-
	多点杖	51 100.0	41 80.4	4 7.8	4 7.8	1 2.0	1 2.0



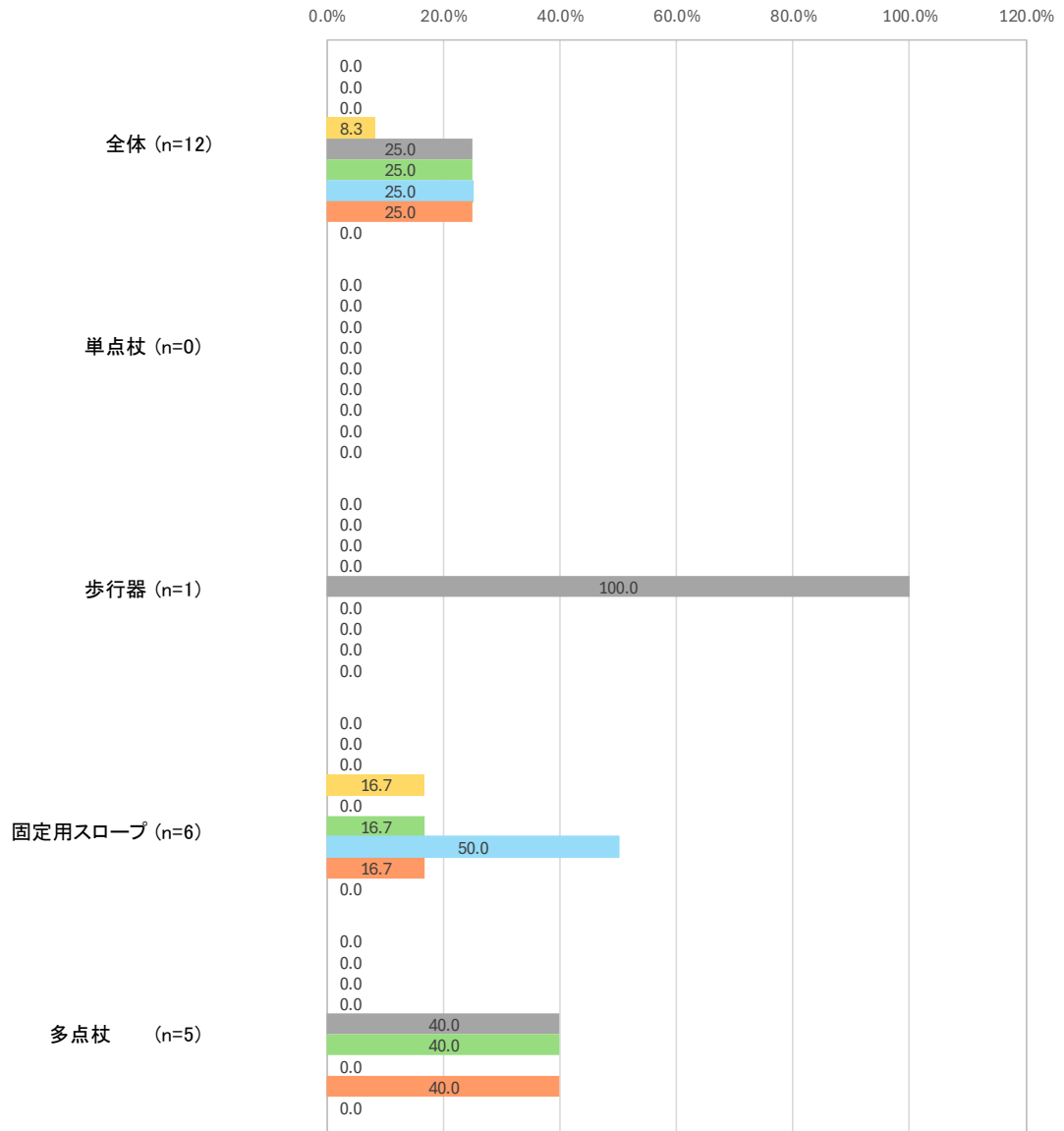
## 2. 使用できていない理由

第3回調査(12か月後)時点で販売継続であったが第4回調査(18か月後)時点では「使用していない」12名について、使用していない理由は全体では「身体の状態が悪くなったから」、「ご利用者様が入院したから」、「ご利用者様が入所したから」、「ご利用者様が死亡したから」が同率で最も多く25.0%であった。

図表 2-15

使用できていない理由

	調査数	い 用 具 が 使 い づ ら	い 用 具 の 調 子 が 悪	ら 用 具 が 壊 れ た か	く 身 体 の 状 態 が 良	く 身 体 の 状 態 が 悪	院 ご 利 用 者 様 が 入	所 ご 利 用 者 様 が 入	亡 ご 利 用 者 様 が 死	そ の 他
全体	12 100.0	- -	- -	- -	1 8.3	3 25.0	3 25.0	3 25.0	3 25.0	- -
調査対象用具	単点杖	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	歩行器	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	- -
	固定用スロープ	6 100.0	- -	- -	- -	1 16.7	- -	1 16.7	3 50.0	1 16.7
	多点杖	5 100.0	- -	- -	- -	- -	2 40.0	2 40.0	- -	2 40.0



- 用具が使いやすいから
- 用具の調子が悪いから
- 用具が壊れたから
- 身体の状態が良くなったから
- 身体の状態が悪くなったから
- ご利用者様が入院したから
- ご利用者様が入所したから
- ご利用者様が死亡したから
- その他

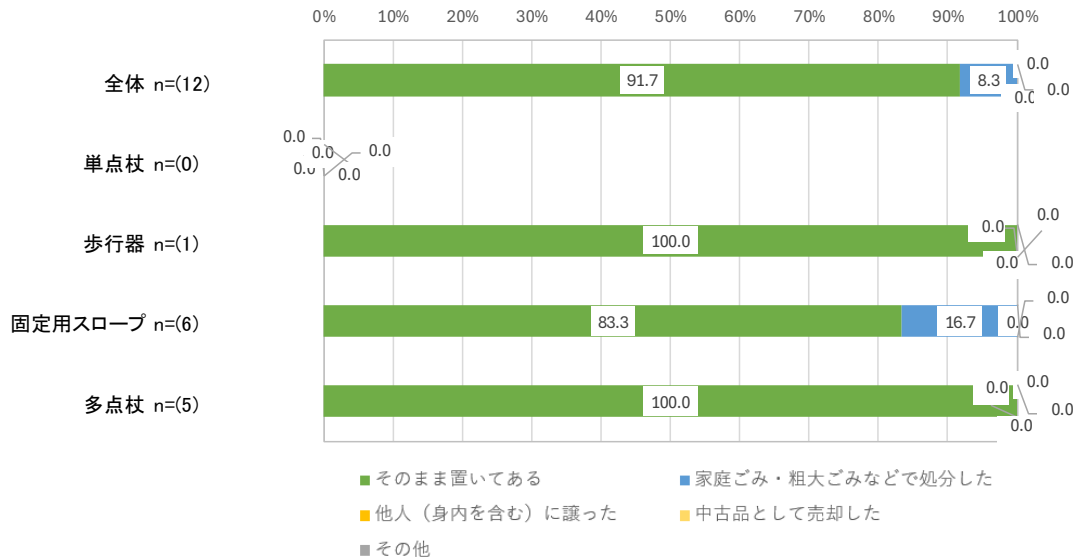
### 3. 使用していない用具

第3回調査(12か月後)時点で販売継続であったが第4回調査(18か月後)時点では「使用していない」12名の用具は、全体として「そのまま置いてある」が91.7%で最も多かった。

図表 2-16

使用していない用具はどうされましたか。

		調査数	そのまま置いて	家庭ごみ・粗大ごみなどで処分した	他人(身内を含む)に譲った	中古品として売却した	その他
全体		12 100.0	11 91.7	1 8.3	-	-	-
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-	-	-
	歩行器	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
	固定用スロープ	6 100.0	5 83.3	1 16.7	-	-	-
	多点杖	5 100.0	5 100.0	-	-	-	-



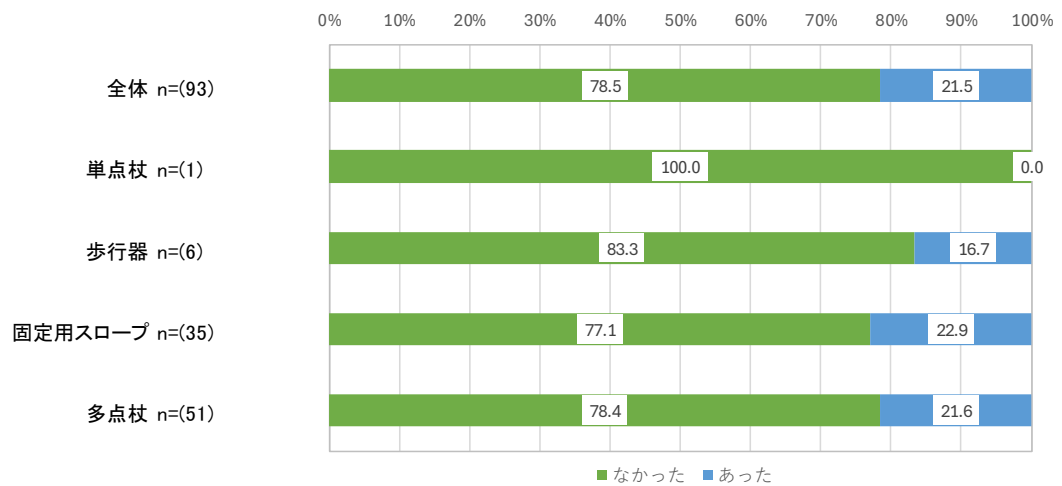
#### 4. 入院や入所

販売使用継続している利用者の6か月間の入院や入所の有無は、全体として「なかった」78.5%、「あった」21.5%であった。

図表 2-17

この6か月の間に、入院や入所はありましたか。

		調査数	なかった	あった
全体		93 100.0	73 78.5	20 21.5
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	- -
	歩行器	6 100.0	5 83.3	1 16.7
	固定用スロープ	35 100.0	27 77.1	8 22.9
	多点杖	51 100.0	40 78.4	11 21.6

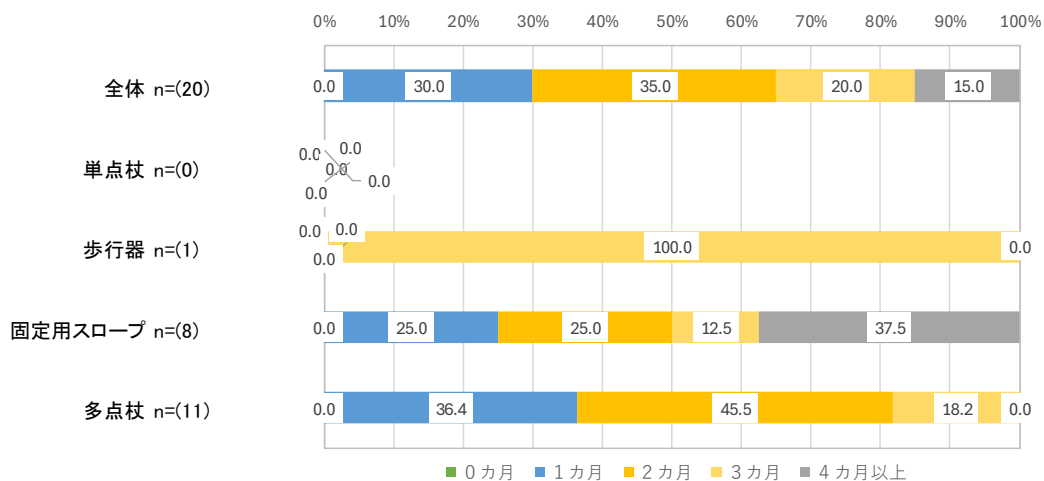


令和7年5月時点で販売使用継続している利用者の6か月の入院や入所の期間は、全体として「2か月」が最も多く35.0%であった。個別で見ると、「単点杖」は利用者がおらず、「歩行器」は「3か月」が100.0%、「固定用スロープ」は「4か月以上」が37.5%、「多点杖」は「2か月」が45.5%で最も多かった。全体の平均期間は2.70か月で、個別で見ると「歩行器」が3.00か月、「固定用スロープ」が3.88か月、「多点杖」が1.82か月であった。

図表 2-18

この6か月の間の入院や入所の期間(合計何カ月)

		調査数	0 カ 月	1 カ 月	2 カ 月	3 カ 月	4 カ 月 以 上
全体		20 100.0	- -	6 30.0	7 35.0	4 20.0	3 15.0
調 査 対 象 用 具	単点杖	- -	- -	- -	- -	- -	- -
	歩行器	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -
	固定用スロープ	8 100.0	- -	2 25.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5
	多点杖	11 100.0	- -	4 36.4	5 45.5	2 18.2	- -



図表 2-19

合計何カ月

		調査数	平均	最小値	最大値
全体		20	2.70	1.00	12.00
調査対象用具	単点杖	-	-	-	-
	歩行器	1	3.00	3.00	3.00
	固定用スロープ	8	3.88	1.00	12.00
	多点杖	11	1.82	1.00	3.00

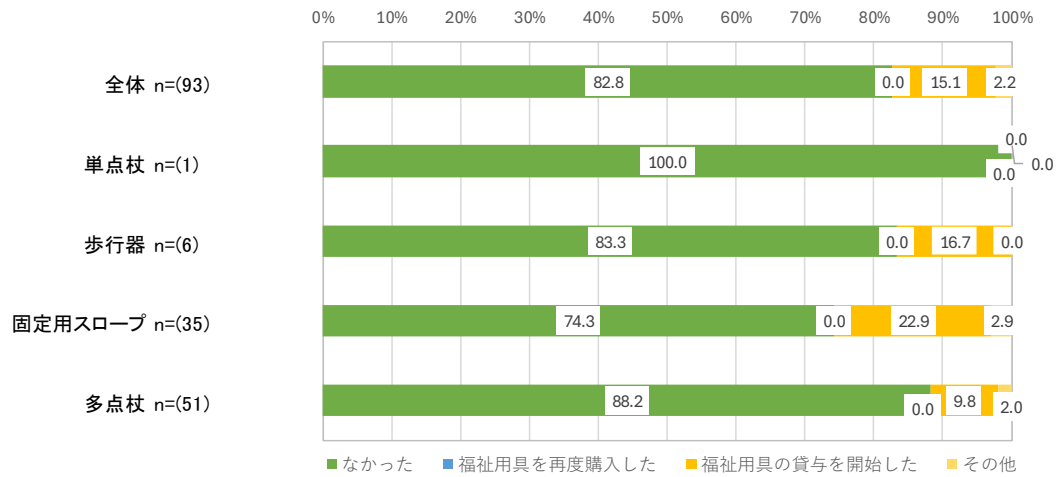
## 5. 福祉用具の再購入や新たな利用開始の有無

販売使用継続している利用者の6か月間に福祉用具の再購入や新たな利用開始の有無は、全体として「なかった」が82.8%で最も多かった。種目別でも、「単点杖」が「なかった」100.0%、「歩行器」が「なかった」83.3%、「固定用スロープ」が「なかった」74.3%、「多点杖」が「なかった」88.2%でいずれも「なかった」が最も多かった。

図表 2-20

この6か月の間に、福祉用具の再購入や新たな利用開始はありましたか。

		調査数	なかった	購入福祉用具を再度	を福祉用具の貸与	その他
全体		93 100.0	77 82.8	-	14 15.1	2 2.2
調査対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	-	-	-
	歩行器	6 100.0	5 83.3	-	1 16.7	-
	固定用スロープ	35 100.0	26 74.3	-	8 22.9	1 2.9
	多点杖	51 100.0	45 88.2	-	5 9.8	1 2.0



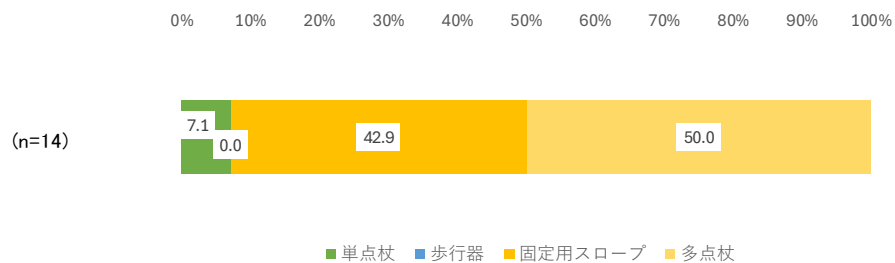
## 2.2.4 福祉用具販売の中止の状況

令和7年5月時点で販売使用中止している利用者の令和7年11月時点の調査対象用具は、「多点杖」が最も多く50.0%であった。

図表 2-21

令和7年5月までに利用中止した調査対象用具

	調査数	単点杖	歩行器	固定用スロープ	多点杖
	14	1	-	6	7
	100.0	7.1	-	42.9	50.0



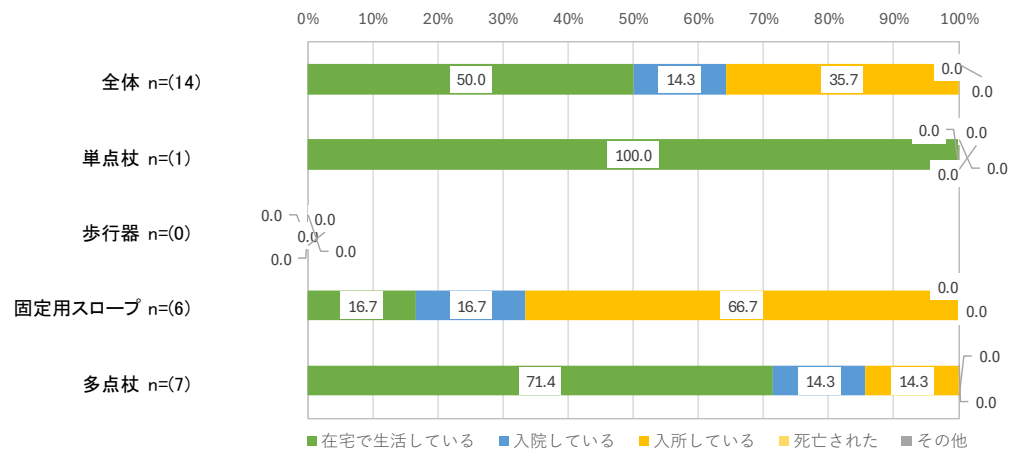
## 1. 利用者の現在の状況

販売使用中止している利用者の現在の状況は、全体として「在宅で生活している」が 50.0%で最も多かった。

図表 2-22

利用者の現在の状況

		調査数	在宅で生活している	入院している	入所している	死亡された	その他
全体		14 100.0	7 50.0	2 14.3	5 35.7	-	-
令和7年5月までに 利用中止した 対象用具	単点杖	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-
	歩行器	-	-	-	-	-	-
	固定用スロープ	6 100.0	1 16.7	1 16.7	4 66.7	-	-
	多点杖	7 100.0	5 71.4	1 14.3	1 14.3	-	-



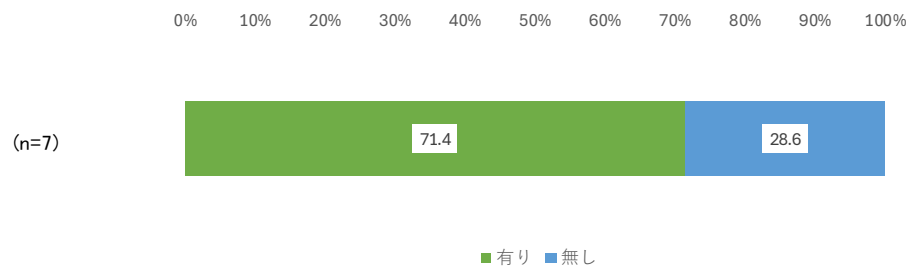
## 2. 現在の福祉用具の利用有無

販売使用中止している利用者の現在における福祉用具の利用有無は、「有り」が 71.4%、「無し」が 28.6%であった。

図表 2-23

現在における福祉用具の利用有無

	調査数	有り	無し
	7	5	2
	100.0	71.4	28.6



### 3. 現在利用している福祉用具

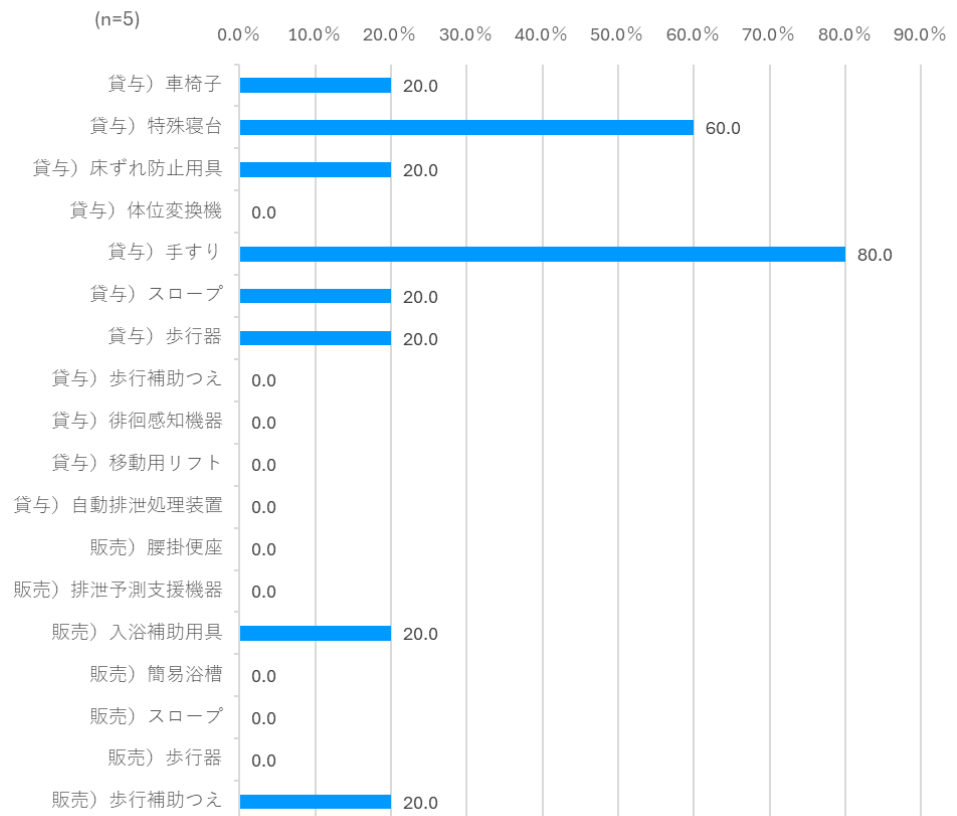
調査対象福祉用具は販売後使用中止して、令和7年11月時点で別の福祉用具を利用している利用者の福祉用具は、「手すり(貸与)」が最も多く80.0%であった。

図表 2-24

現在利用している福祉用具

	調査数	貸与(車椅子)	貸与(特殊寝台)	貸与(床ずれ防止用具)	貸与(体位変換機)	貸与(手すり)	貸与(スロープ)	貸与(歩行器)	貸与(歩行補助つえ)	貸与(徘徊感知機器)
	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	- -	4 80.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -

	貸与(移動用リフト)	貸与(自動排泄処理装置)	販売(腰掛便座)	販売(排泄予測支援機器)	販売(入浴補助用具)	販売(簡易浴槽)	販売(スロープ)	販売(歩行器)	販売(歩行補助つえ)
	- -	- -	- -	- -	1 20.0	- -	- -	- -	1 20.0



## 2.3 第1回～第4回(18 か月間)の結果

### 2.3.1 第1回～第4回(18 か月間)の推移

#### 1. 貸与月数[調査対象用具別]

貸与を開始してから18か月間の貸与月数は、「18か月以上」が最も多く30.3%であった。種目別では、「単点杖」が「18か月以上」40.0%、「歩行器」が「18か月以上」29.3%、「固定用スロープ」が「3か月未満」及び「18か月以上」19.8%、「多点杖」が「18か月以上」34.6%で最も多かった。

図表 3-01

貸与月数

		調査数	3か月未満	3ヶ月6か月未満	6ヶ月9か月未満	満9ヶ月12か月未満	未12ヶ月15か月	未15ヶ月18か月	18か月以上	無回答
全体		390	60	56	41	38	19	11	118	47
		100.0	15.4	14.4	10.5	9.7	4.9	2.8	30.3	12.1
調査対象用具	単点杖	5	1	-	-	-	1	1	2	-
		100.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	40.0	-
	歩行器	58	7	11	6	7	2	3	17	5
		100.0	12.1	19.0	10.3	12.1	3.4	5.2	29.3	8.6
固定用スロープ	96	19	15	9	10	6	4	19	14	
	100.0	19.8	15.6	9.4	10.4	6.3	4.2	19.8	14.6	
多点杖	231	33	30	26	21	10	3	80	28	
	100.0	14.3	13.0	11.3	9.1	4.3	1.3	34.6	12.1	

貸与を終了した福祉用具の平均貸与期間は、全体で10.75か月であった。種目別では、「単点杖」が13.60か月、「歩行器」が10.63か月、「固定用スロープ」が9.36か月、「多点杖」が11.27か月であった。

図表 3-02

貸与を終了した福祉用具の平均貸与期間

		調査数	貸与期間を終了した平均
全体		343	10.75
調査対象用具	単点杖	5	13.60
	歩行器	53	10.63
	固定用スロープ	82	9.36
	多点杖	203	11.27

## 2. モニタリング実施回数[調査対象用具別]

貸与を開始してから18か月間のモニタリング実施回数は、全体として「5回」が52.2%で最も多かった。種目別では、「単点杖」が「5回」と「6回」、「7回以上」が同率で33.3%、「歩行器」が「5回」47.4%、「固定用スロープ」が「5回」40.7%、「多点杖」が「5回」57.3%で最も多かった。

図表 3-03

累計モニタリング実施回数

		調査数	3回	4回	5回	6回	7回以上	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		138 100.0	3 2.2	37 26.8	72 52.2	17 12.3	9 6.5	138	5.10	1.51	3.00	16.00
調査対象用具	単点杖	3 100.0	-	-	1 33.3	1 33.3	1 33.3	3	6.00	0.82	5.00	7.00
	歩行器	19 100.0	-	7 36.8	9 47.4	2 10.5	1 5.3	19	5.00	1.34	4.00	10.00
	固定用スロープ	27 100.0	1 3.7	8 29.6	11 40.7	6 22.2	1 3.7	27	4.93	0.90	3.00	7.00
	多点杖	89 100.0	2 2.2	22 24.7	51 57.3	8 9.0	6 6.7	89	5.15	1.69	3.00	16.00

### 3. 貸与価格・販売価格中央値[調査対象用具別]

第1回～第4回を通算した調査対象用具別の貸与価格の中央値は、「単点杖」が 1,020 円、「歩行器」が 2,201 円、「固定用スロープ」が 600 円、「多点杖」が 1,157 円であった。

第1回～第4回を通算した調査対象用具別の販売価格の中央値は、「単点杖」が 11,067 円、「歩行器」が 31,535 円、「固定用スロープ」が 8,487 円、「多点杖」が 18,517 円であった。

図表 3-04

貸与価格・販売価格中央値

		調査数	貸与価格中央値	販売価格中央値
調査対象用具	単点杖	7	1,020	11,067
	歩行器	59	2,201	31,535
	固定用スロープ	134	600	8,487
	多点杖	263	1,157	18,517

### 4. 利用者負担額における分岐月数[調査対象用具別]

第1回～第4回を通算した利用者負担額における分岐月数は、「単点杖」が 10.85 か月、「歩行器」が 14.33 か月、「固定用スロープ」が 14.14 か月、「多点杖」が 16.00 か月であった。

図表 3-05

利用者負担額における分岐月数

		調査数	貸与価格中央値 販売価格中央値 ／
調査対象用具	単点杖	7	10.85
	歩行器	59	14.33
	固定用スロープ	134	14.14
	多点杖	263	16.00

## 5. 利用者負担額の増減[調査対象用具別]

第1回～第4回を通算した調査対象用具別の利用者負担額の増減は、全体として「増加」が34.0%、「減少」が66.0%であった。種目別では、「単点杖」は「増加」及び「減少」50.0%、「歩行器」が「減少」60.7%、「固定用スロープ」が「減少」66.4%、「多点杖」が「減少」67.5%が多かった。

第1回～第4回を通算した利用者負担額の増減の平均額は、全体として619円の減少であった。個別で見ると、「単点杖」が120円の減少、「歩行器」が1,079円の減少、「固定用スロープ」が334円の減少、「多点杖」が664円の減少であった。

※「利用者負担額の増減」は以下の計算結果による

貸与利用者の場合：(購入した場合の自己負担額) - (福祉用具貸与期間×貸与価格(自己負担))

購入利用者の場合：(福祉用具利用期間×貸与価格(自己負担)) - (購入した自己負担額)

図表 3-06

利用者負担額の増減

		調査数	増加	増減なし	減少	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		406	138	-	268	406	-619	1,394	-15,528	4,536
		100.0	34.0	-	66.0					
調査対象用具	単点杖	6	3	-	3	6	-120	932	-1,508	1,218
		100.0	50.0	-	50.0					
	歩行器	56	22	-	34	56	-1,079	2,218	-7,149	4,536
		100.0	39.3	-	60.7					
	固定用スロープ	116	39	-	77	116	-334	703	-3,132	1,229
		100.0	33.6	-	66.4					
	多点杖	228	74	-	154	228	-664	1,369	-15,528	1,431
		100.0	32.5	-	67.5					

## 6. 利用者負担額の増減[貸与/販売別]

第1回～第4回を通算した貸与・販売別の利用者負担額の増減は、全体として「増加」が34.0%、「減少」が66.0%であった。「貸与」では「増加」37.2%、「減少」62.8%で、「販売」では「増加」24.8%、「減少」75.2%であった。

利用者負担額の増減の平均額は、全体として619円の減少であった。個別で見ると、「貸与」が603円の減少、「販売」が664円の減少であった。

図表 3-07

		調査数	増加	増減なし	減少	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		406	138	—	268	406	-619	1,394	-15,528	4,536
		100.0	34.0	—	66.0					
利用者負担額 の増減 (貸与/ 販売)	貸与	301	112	—	189	301	-603	1,273	-7,149	4,536
		100.0	37.2	—	62.8					
	販売	105	26	—	79	105	-664	1,692	-15,528	1,326
		100.0	24.8	—	75.2					

## 7. 給付額の増減 [調査対象用具別]

第1回～第4回を通算した調査対象用具別の給付額の増減は、全体として「増加」が34.0%、「減少」が66.0%であった。種目別では、「単点杖」が「増加」57.1%、「歩行器」が「減少」61.4%、「固定用スロープ」が「減少」66.4%、「多点杖」が「減少」67.6%であった。

また、給付額の平均増減額は、全体として4,564円の減少であった。種目別では、「単点杖」が785円の減少、「歩行器」が8,300円の減少、「固定用スロープ」が2,688円の減少、「多点杖」が4,694円の減少であった。

※「給付額の増減」は以下の計算結果による

貸与利用者の場合：(販売(購入)した場合の給付額) - (福祉用具貸与期間×貸与価格(給付額))

販売(購入)利用者の場合：(福祉用具利用期間×貸与価格(給付額)) - (販売(購入)した給付額)

図表 3-08

給付額の増減

		調査数	増加	増減なし	減少	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		418 100.0	142 34.0	-	276 66.0	418	-4,564	8,500	-37,404	19,062
調査対象用具	単点杖	7 100.0	4 57.1	-	3 42.9	7	-785	7,800	-13,572	10,962
	歩行器	57 100.0	22 38.6	-	35 61.4	57	-8,300	15,147	-37,404	19,062
	固定用スロープ	116 100.0	39 33.6	-	77 66.4	116	-2,688	5,683	-24,327	11,061
	多点杖	238 100.0	77 32.4	-	161 67.6	238	-4,694	6,994	-36,232	11,934

## 8. 給付額の増減[貸与/販売別]

第1回～第4回を通算した貸与・販売別の給付額の増減は、全体として「増加」が 34.0%、「減少」が 66.0%であった。個別で見ると、「貸与」が「減少」で 62.8%、「販売」が「減少」で 75.5%であった。

また、給付額の平均増減額は、全体として 4,564 円の減少であった。個別で見ると、「貸与」が 4,716 円の減少、「販売」が 4,116 円の減少であった。

図表 3-09

給付額の増減

		調査数	増加	増減なし	減少	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
全体		418 100.0	142 34.0	-	276 66.0	418	-4,564	8,500	-37,404	19,062
利用者負／販売の増減	貸与	312 100.0	116 37.2	-	196 62.8	312	-4,716	8,891	-37,404	19,062
	販売	106 100.0	26 24.5	-	80 75.5	106	-4,116	7,206	-36,232	11,934

## 9. 利用者負担額/給付額の増減(金額)【減少】[貸与]

第1回～第4回を通算した貸与の利用者負担額及び給付額の増減金額のうち減少部分について、全体としては、2,151,008 円の減少であった。個別で見ると、利用者負担額は 237,844 円の減少、給付額は 1,913,164 円の減少であった。

図表 3-10

減少		調査数	減少の合計
貸与			
全体		196	-2,151,008
利用者負担額の増減(金額) (金額)	利用者負担額の増減(金額)【減少】	189	-237,844
	給付額の増減(金額)【減少】	196	-1,913,164

## 10. 利用者負担額/給付額の増減(金額)【増加】[貸与]

第1回～第4回を通算した貸与の利用者負担額及び給付額の増減金額のうち増加部分について、全体としては、498,080 円の増加であった。個別で見ると、利用者負担額は 56,265 円の増加、給付額は 441,815 円の増加であった。

図表 3-11

貸与		調査数	増加の合計
全体		116	498,080
利用者負担額/給付額の増減(金額)【増加】	利用者負担額の増減(金額)【増加】	112	56,265
	給付額の増減(金額)【増加】	116	441,815

## 11. 利用者負担額/給付額の増減(金額)【総合計】[貸与]

第1回～第4回を通算した貸与の利用者負担額及び給付額の増減について、全体としては、1,652,928 円の減少であった。個別で見ると、利用者負担額は 181,579 円の減少、給付額は 1,471,349 円の減少であった。

図表 3-12

貸与		調査数	総合計
全体		312	-1,652,928
利用者負担額の増減(金額) 給付額の増減(金額)	利用者負担額の増減(金額)	301	-181,579
	給付額の増減(金額)	312	-1,471,349

## 12. 利用者負担額/給付額の増減(金額)【減少】[販売]

第1回～第4回を通算した販売の利用者負担額及び給付額の増減金額のうち減少部分について、全体としては、620,482 円の減少であった。個別で見ると、利用者負担額は 81,238 円の減少、給付額は 539,244 円の減少であった。

図表 3-13

販売		調査数	減少の合計
全体		80	-620,482
利用者負担額 / 給付額の増減 (金額)	利用者負担額の増減(金額)【減少】	79	-81,238
	給付額の増減(金額)【減少】	80	-539,244

### 13. 利用者負担額/給付額の増減(金額)【増加】[販売]

第1回～第4回を通算した販売の利用者負担額及び給付額の増減金額のうち増加部分について、全体としては、114,520 円の増加であった。個別で見ると、利用者負担額は 11,524 円の増加、給付額は 102,996 円の増加であった。

図表 3-14

販売		調査数	増加の合計
全体		26	114,520
利用者負担額/給付額の増減(金額)	利用者負担額の増減(金額)【増加】	26	11,524
	給付額の増減(金額)【増加】	26	102,996

#### 14. 利用者負担額/給付額の増減(金額)【総合計】[販売]

第1回～第4回を通算した販売の利用者負担額及び給付額の増減について、全体としては、505,962円の減少であった。個別で見ると、利用者負担額は69,714円の減少、給付額は436,248円の減少であった。

図表 3-15

販売		調査数	総合計
全体		106	-505,962
利用者負担額の増減(金額) 給付額の増減(金額)	利用者負担額の増減(金額)	105	-69,714
	給付額の増減(金額)	106	-436,248

■図表 3-10～3-15 のうち、「利用者負担額の増減」の注釈

※自己負担割合は、各利用者における最新の割合を適用している。

※自己負担が発生しない利用者(生活保護等)は、利用者負担額の増減に影響しないことから対象外としている。

※貸与金額は、各利用者における貸与開始日及び貸与終了日に基づき半月単位で計算している。

※調査の途中で貸与から販売(販売から貸与)へ移行した利用者は対象外としている。

※販売利用した福祉用具は実際の販売価格を適用し、貸与 TAIS コードに紐づく希望小売価格を適用している。

※第 2 回調査(令和 7 年 11 月実施)において貸与回収となった利用者の貸与価格及び販売価格の情報は欠測したため、それ以外の調査における種目別の平均貸与価格及び平均販売価格を適用している。

■図表 3-10～3-15 のうち、「給付費の増減」の注釈

※給付割合は、各利用者における最新の自己負担割合に基づいて設定している。

※貸与金額は、各利用者における貸与開始日及び貸与終了日に基づき半月単位で計算している。

※調査の途中で貸与から販売(販売から貸与)へ移行した利用者は対象外としている。

※販売利用した福祉用具は実際の販売価格を適用し、貸与 TAIS コードに紐づく希望小売価格を適用している。

※第 2 回調査(令和 7 年 11 月実施)において貸与回収となった利用者の貸与価格及び販売価格の情報は欠測したため、それ以外の調査における種目別の平均貸与価格及び平均販売価格を適用している。

## 15. 貸与や販売の選択によって実際に発生した費用(金額)[貸与/販売別]

貸与や販売の選択によって実際に発生した費用は、全体として「利用者負担額」が 639,277 円、「給付額」が 5,044,536 円で合計 5,683,811 円であった。

貸与/販売別でみると、「貸与」は「利用者負担額」が 460,675 円、「給付額」が 3,728,874 円で合計 4,189,548 円、「販売」は「利用者負担額」が 178,601 円、「給付額」が 1,315,662 円で合計 1,494,263 円であった。

図表 3-16

実際に発生した費用

		調査数	利用者負担額	給付額	費 実 用 際 計 に 発 生 し た
全体		418	639,277	5,044,536	5,683,811
貸 与 ・ 販 売	貸与	312	460,675	3,728,874	4,189,548
	販売	106	178,601	1,315,662	1,494,263

## 16. 全て貸与だった場合の費用(金額)[貸与/販売別]

全て貸与だった場合の費用は、「利用者負担額」が 708,991 円、「給付額」が 5,480,784 円で合計 6,189,773 円であった。

図表 3-17

全て貸与だった場合の費用

		調査数	利用者負担額	給付額	場 全 合 て 貸 与 費 用 だ っ た 計 算
全体		418	708,991	5,480,784	6,189,773
貸 与 ・ 販 売	貸与	418	708,991	5,480,784	6,189,773
	販売	-	-	-	-

## 17. 全て販売だった場合の費用(金額)[貸与/販売別]

全て販売だった場合の費用は、「利用者負担額」が 820,854 円、「給付額」が 6,515,886 円で合計 7,336,738 円であった。

図表 3-18

		調査数	利用者負担額	給付額	販売だった場合費用計
全体		418	820,854	6,515,886	7,336,738
貸与・販売	貸与	-	-	-	-
	販売	418	820,854	6,515,886	7,336,738

## 18. 選択制における福祉用具専門相談員の業務に係る費用

令和 7 年度介護事業実態調査(介護事業経営概況調査)によると、福祉用具専門相談員(常勤換算)1 人当たり給与費(賞与込み)は 403,607 円、当協会会員企業におけるヒアリング調査から 1 か月の労働時間を 181.84 時間(所定労働時間 164 時間+平均残業時間 17.84 時間)とし、福祉用具専門相談員の時給を 2,220 円/時間(37 円/分)とした。

選択制では、福祉用具専門相談員が利用者に対して、貸与又は販売(購入)を選択できることについて十分な説明を行い、利用者の自立的な選択に資する必要がある。具体的には、選択候補となる福祉用具について、貸与・販売(購入)の価格、平均貸与年数、修理・故障時の対応、メリット/デメリット等を説明する必要があり、これらに要する時間を 10 分とした。

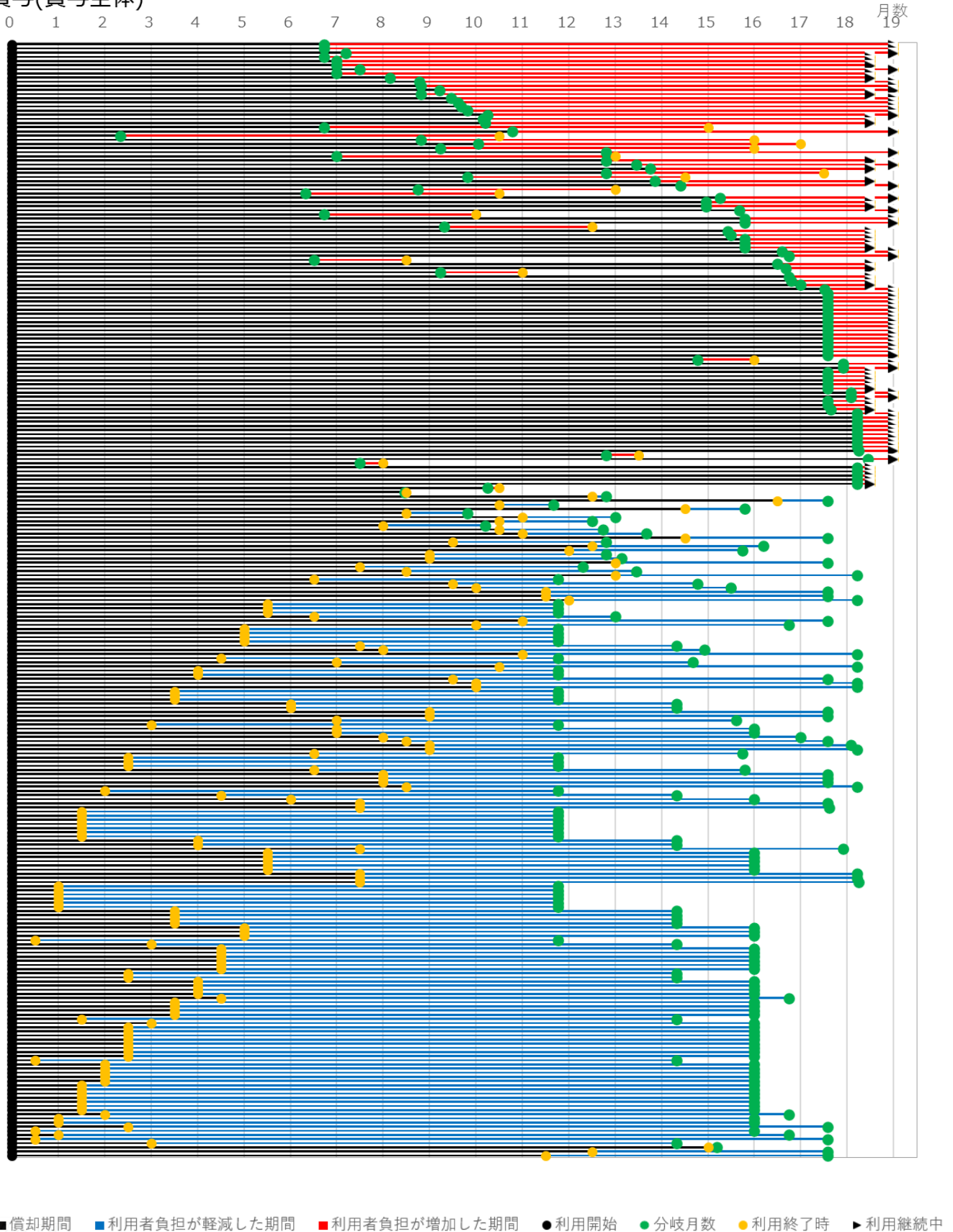
これらを基にした事務負担等のコストとしては、418 名(図表 3-16 の対象者数)×10 分(選択制によって増加する説明等の時間)×37 円(福祉用具専門相談員の時(分)給)=154,660 円となり、これは図表 3-16 の販売(購入)の選択によって発生した費用(1,494,263 円)の約 1 割であった。

## 2.3.2 利用者ごとの「利用者負担額における分岐月数」と「実際の利用期間」の比較

### 1. 貸与全体

図表 3-19

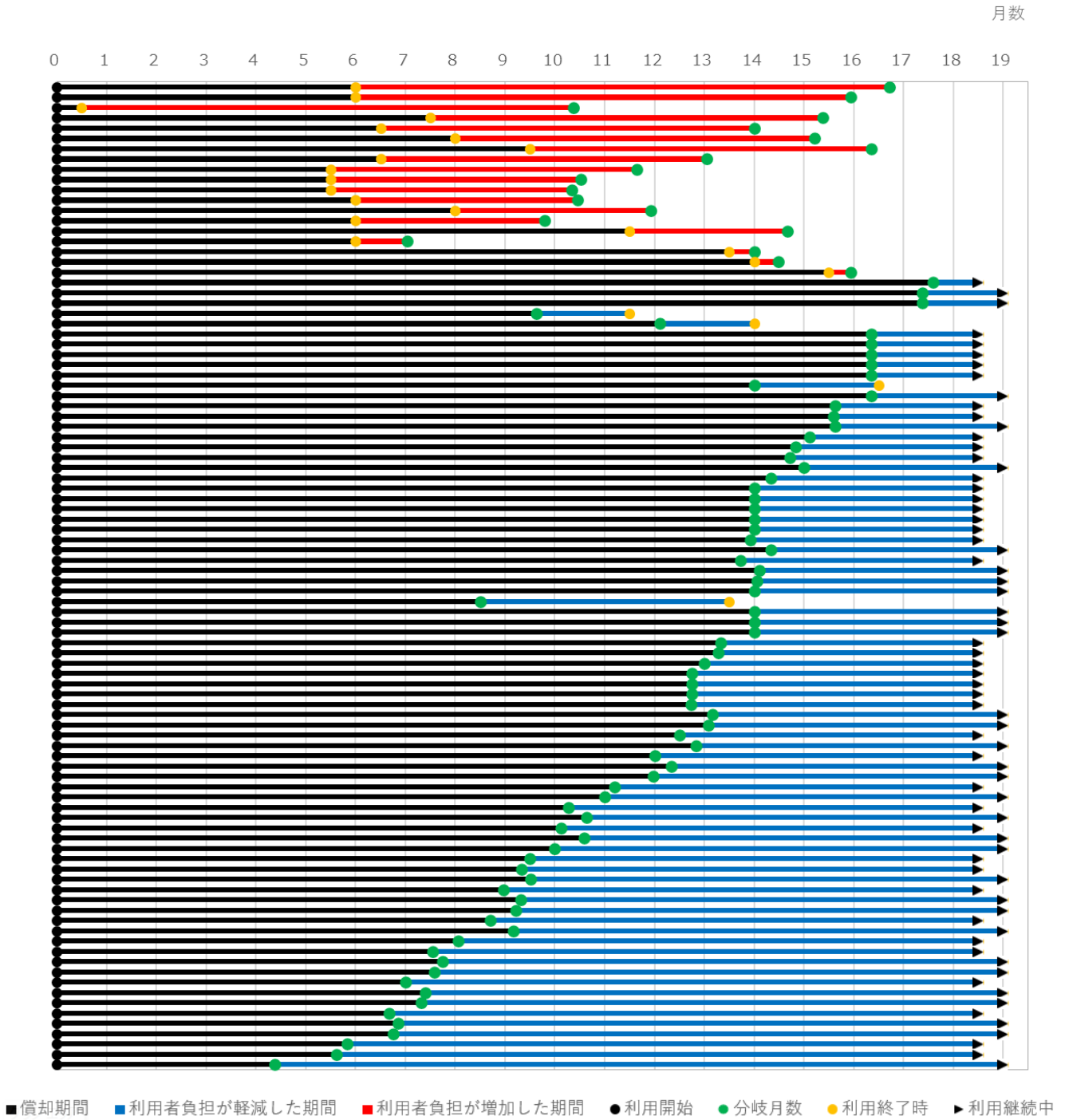
①貸与(貸与全体)



## 2. 販売全体

図表 3-20

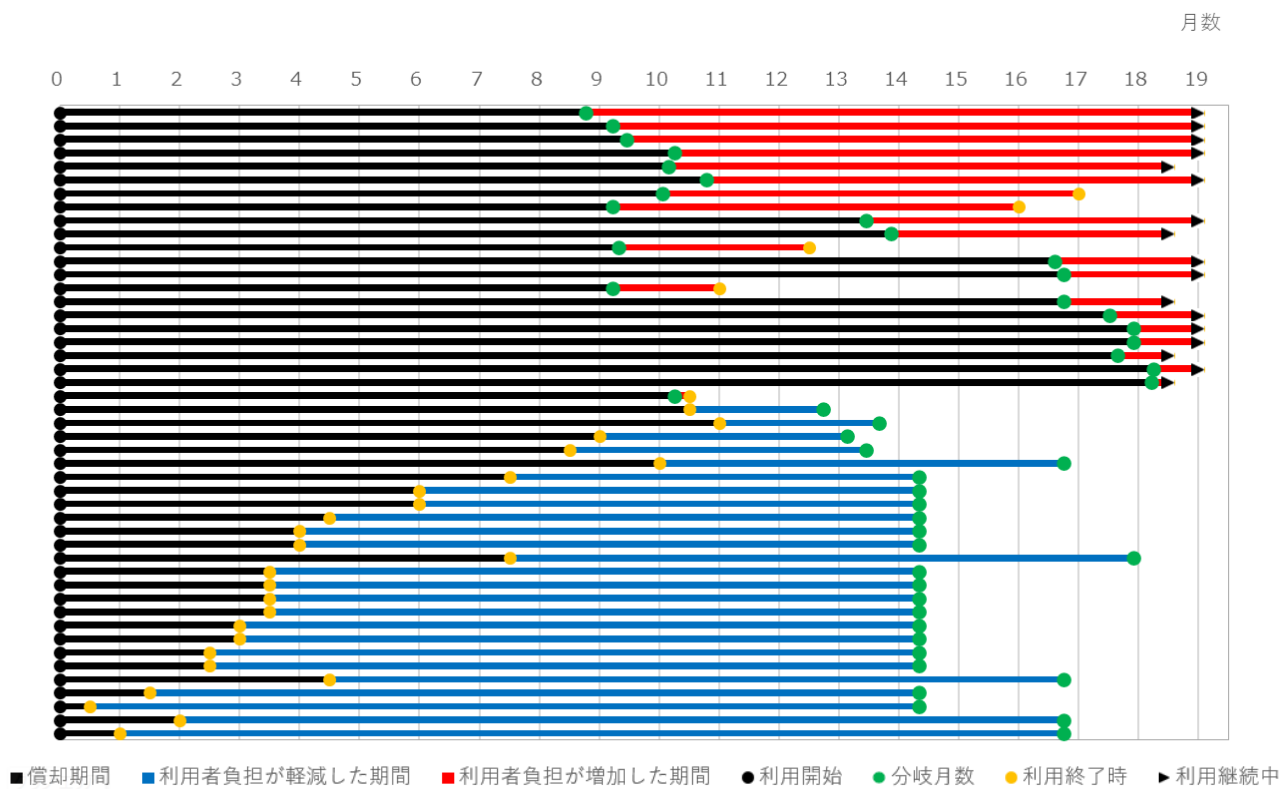
### ②販売(販売全体)



### 3. 貸与(歩行器)

図表 3-21

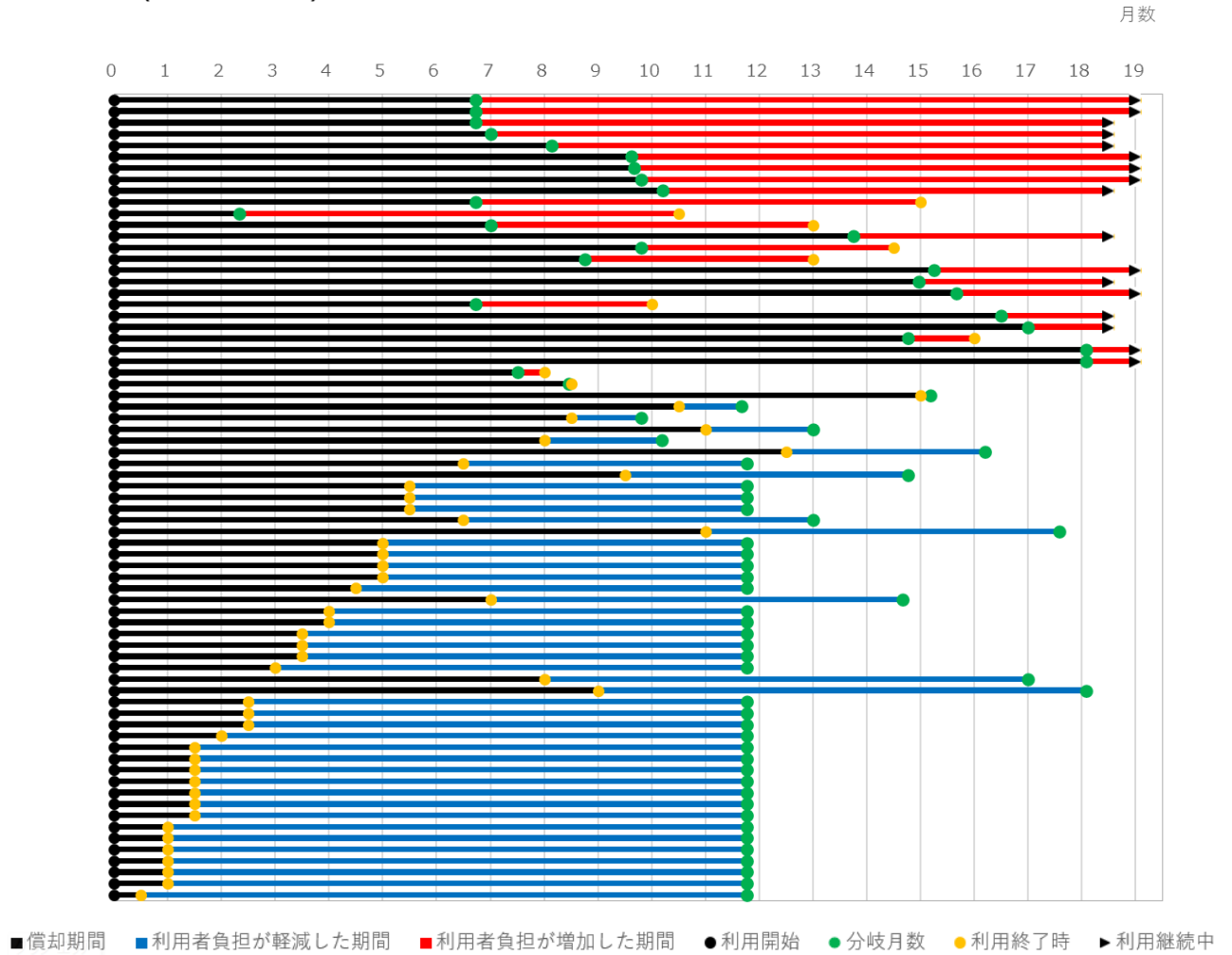
#### ③貸与(歩行器)



## 4. 貸与(固定用スロープ)

図表 3-22

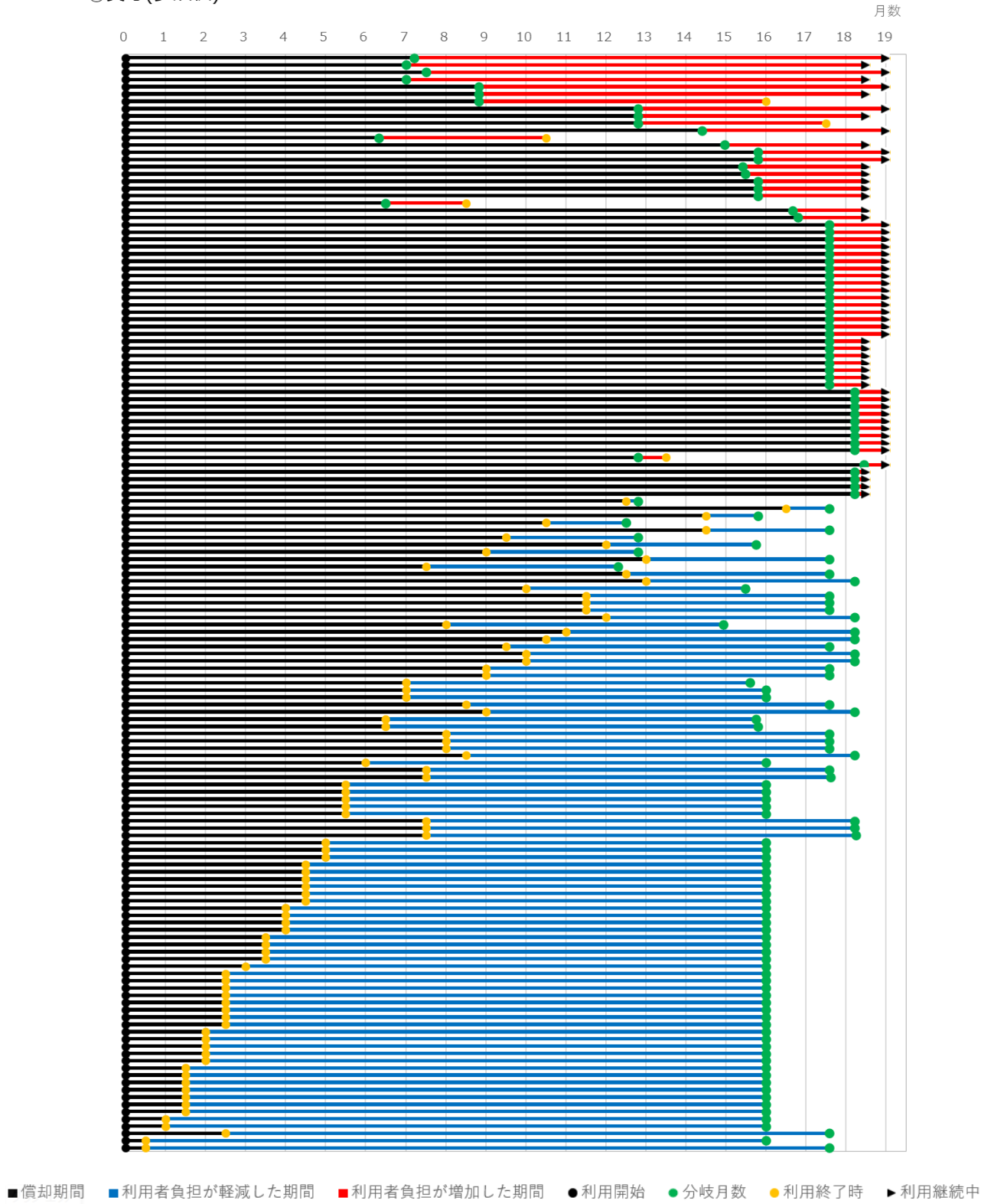
### ④貸与(固定用スロープ)



## 5. 貸与(多点杖)

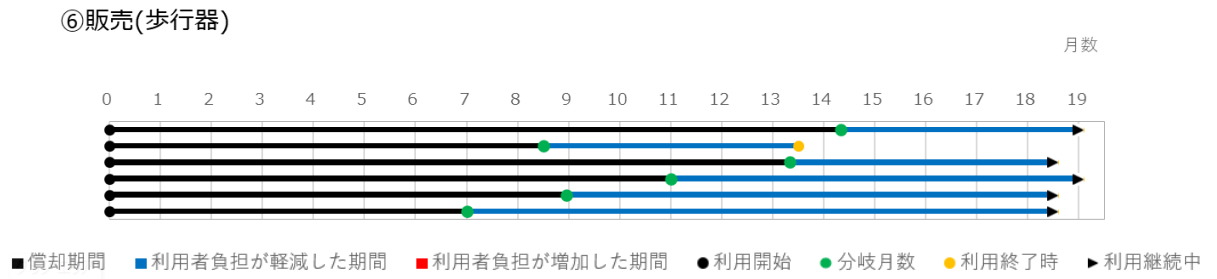
図表 3-23

⑤貸与(多点杖)



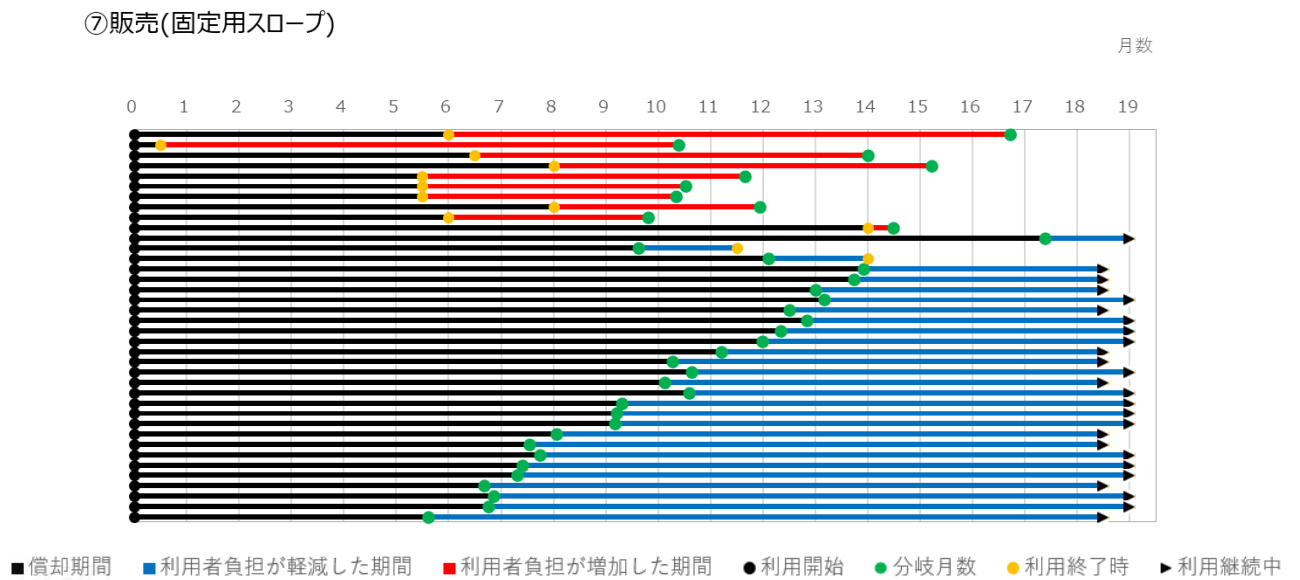
## 6. 販売(歩行器)

図表 3-24



## 7. 販売(固定用スロープ)

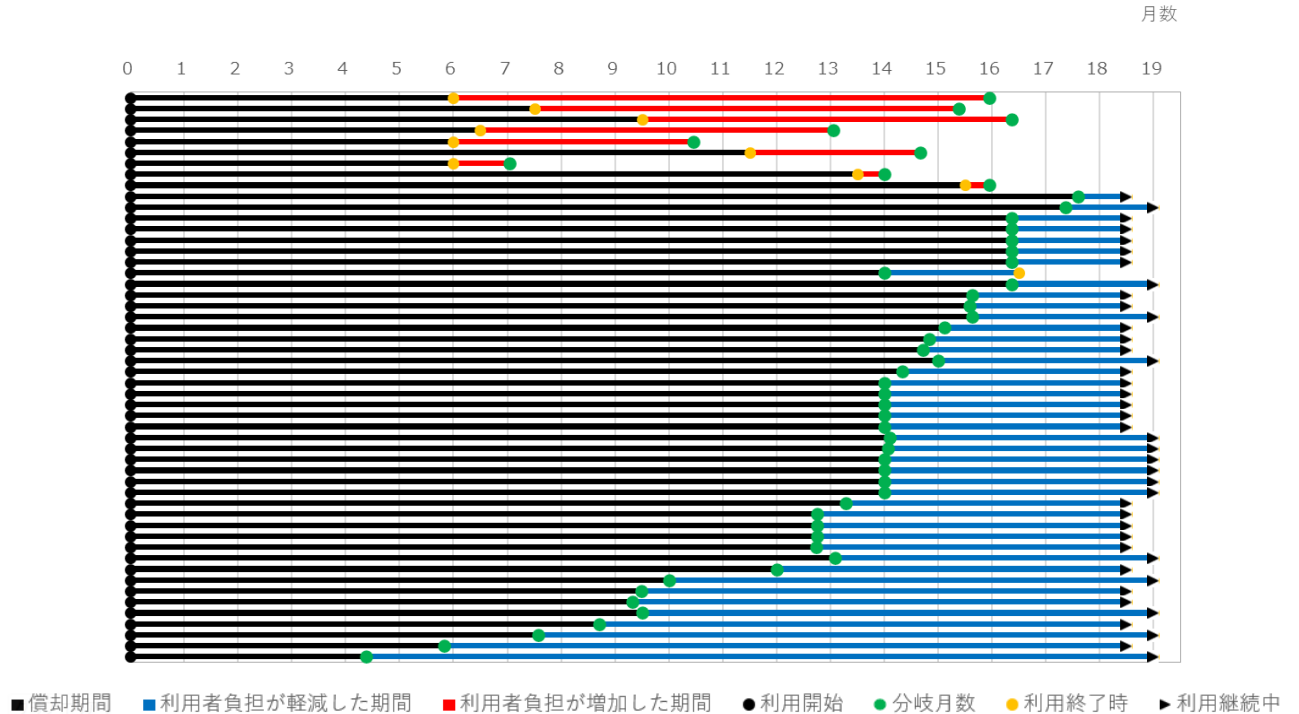
図表 3-25



## 8. 販売(多点杖)

図表 3-26

⑧販売(多点杖)



■利用者ごとの「利用者負担額における分岐月数」と「実際の利用期間」の比較グラフ

(図表 3-19～3-26)の注釈

※自己負担割合は、各利用者における最新の割合を適用している。

※自己負担が発生しない利用者(生活保護等)は、利用者負担額の増減に影響しないことから対象外としている。

※貸与金額は、各利用者における貸与開始日及び貸与終了日に基づき半月単位で計算している。

※調査の途中で貸与から販売(販売から貸与)へ移行した利用者は対象外としている。

※単点杖は件数が少ないため対象外としている。

※損益分岐月数が本調査の全期間を超えている利用者は対象外としている。

※販売利用者した福祉用具は実際の販売価格を適用し、貸与 TAIS コードに紐づく希望小売価格を適用している。

※第 2 回調査(令和 7 年 11 月実施)において貸与回収となった利用者の貸与価格及び販売価格の情報は欠測したため、それ以外の調査における種目別の平均貸与価格及び平均販売価格を適用している。